



記録誌

RIテーマ

The Magic of Rotary
ロータリーのマジック

地区スローガン

個性輝くロータリー

2024年

10月12日(土)・13日(日)

10/12 ホテルサンルート五所川原

10/13 五所川原市ふるさと交流圏民センター「オルテンシア」
プラザマリウ五所川原

地区大会 in 五所川原

国際ロータリー第2830地区 2024-25年度

■ホストクラブ／五所川原ロータリークラブ

■コ・ホストクラブ

金木ロータリークラブ／鰯ヶ沢ロータリークラブ／鶴田ロータリークラブ

五所川原中央ロータリークラブ／つがるロータリークラブ／

五所川原イヴニングロータリークラブ

Contents

地区大会プログラム	1	物故者ご芳名	27
来賓・招待者・ゲストご芳名	5	各種委員会報告	28
【大会1日目】		【現況報告等】	
各種委員会	8	国際ロータリー現況報告	29
諮問委員会	9	地区現況報告	35
会長・幹事会	9	グローバル補助金事業に対する感謝のことば	37
大会決議文	10	各種表彰	38
【指導者育成セミナー】		【パネルディスカッション】	
第1部基調講演	12	「個性輝くロータリー」	44
「今あらためてロータリーを考えよう」		【記念講演】	
第2部オープンフォーラム	14	「一即一切 一切即一」	47
「Grow Rotaryの実践」		各委員会の活動報告と今年度の方針	49
RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会	16	【閉会セレモニー】	
【大会2日目】		ガバナーエレクト・ノミネー紹介	54
オープニングアクト	18	次期地区大会開催クラブ挨拶	55
RI会長メッセージ	19	国際大会オンツーカーガリー	55
RI会長代理挨拶	20	国際ロータリー会長代理所感	56
ガバナー挨拶	21	閉会の挨拶	56
開会挨拶	23	【大懇親会】	
来賓祝辞	24	開会挨拶	57
記念事業紹介・目録贈呈	26	登録者名簿	60
		地区大会実行委員会	62
		地区大会記録誌の発刊にあたって	64

大会 1 日目

2024年10月12日(土)

13:00	各種委員会	
	登録委員会	ホテルサンルート五所川原／2階アクアの間
	信任状委員会	〃／3階金扇の間
	決議委員会	〃／3階金扇の間
14:00	諮問委員会	ホテルサンルート五所川原／2階クリスタルの間
15:00	会長幹事会	ホテルサンルート五所川原／2階萬葉の間
16:00	地区指導者育成セミナー	ホテルサンルート五所川原 2階萬葉の間 司会進行／地区幹事長 木村 重介
<div>第1部 基調講演「今あらためてロータリーを考えよう」</div> <div>RI会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門</div>		
<div>第2部 オープンフォーラム「Grow Rotaryの実践」</div> <div>ファシリテーター 山崎 淳一</div> <div>ガバナー 花田 勝彦</div> <div>アドバイザー RI会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門</div>		
18:00	RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会	ホテルサンルート五所川原 2階萬葉の間 司会進行／(五所川原RC) 小田桐 マキ子
	RI会長代理ご夫妻入場	
	ガバナー挨拶	ガバナー 花田 勝彦
	RI会長代理紹介	元RI研修リーダーパストガバナー 山崎 淳一
	RI会長代理挨拶	RI会長代理 高野 孫左エ門
	乾 杯	パストガバナー 沼田 廣
	アトラクション	弦楽四重奏
	中締め	パストガバナー 成田 秀治
	RI会長代理ご夫妻退場	

大会2日目

会場：オルテンシア／大ホール
司会進行／(五所川原RC) 島村 寿子
(つがるRC) 清野 悟

9:15	オープニングアクト	新宮団地こども園の皆さん
9:30	第1本会議	
	開会点鐘	ガバナー 花田 勝彦
	国歌斉唱	
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱	
	物故会員への黙祷	
	開会挨拶	大会実行委員長 敦賀 鉄正
	来賓紹介	ガバナー 花田 勝彦
	ガバナー挨拶	ガバナー 花田 勝彦
	国際ロータリー会長からのビデオメッセージ	
		RI会長 ステファニーA.アーチック
	国際ロータリー会長代理挨拶	RI会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門
	来賓祝辞(ビデオメッセージ)	青森県知事 宮下 宗一郎
		五所川原市長 佐々木 孝昌
	記念事業紹介・目録贈呈	ガバナー 花田 勝彦
	参加クラブ紹介	各グループガバナー補佐
10:20	各種委員会報告、決議	
	登録委員会	委員長 築 館 智 大
	信任状委員会	委員長 田 中 常 浩
	決議委員会	委員長 成 田 秀 治
10:50	現況報告等	
	国際ロータリー現況報告	RI会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門
	地区現況報告	ガバナー 花田 勝彦
	グローバル補助金事業に対する感謝の言葉	
		RI第3330地区ガバナー代理・バストガバナー Quanchai Laohaviraphap
11:30	各種表彰	
		RI会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門
		地区表彰委員会委員長 築 館 智 大

2024年10月13日(日)

12:00	特別昼食会 参加者昼食会	ホテルサンルート五所川原 オルテンシア小ホール他
13:00	<div>第2本会議</div> <div> <div>パネルディスカッション</div> <div>テーマ「個性輝くロータリー」</div> <div> <div>RI会長代理(甲府RC)</div> <div>高野 孫左エ門</div> </div> <div> <div>元RI理事・パストガバナー</div> <div>黒田 正宏</div> </div> <div> <div>パストガバナー</div> <div>関場 慶博</div> </div> <div> <div>地区ラーニングファシリテーター</div> <div>山崎 淳一</div> </div> <div> <div>ガバナー</div> <div>花田 勝彦</div> </div> </div>	
14:10	<div>記念講演</div> <div>「一即一切 一切即一」</div> <div>～個性と全体、全体と個性。熱くて篤い南米事情～</div> <div>曹洞宗南アメリカ国際布教総監 清野 暢邦</div>	
15:10	<div>各委員会の活動報告と今年度の方針</div> <div> <div>RLI委員会</div> <div>委員長 三浦 真介</div> </div> <div> <div>会員増強部門</div> <div>クラブ拡大・会員増強委員長 吉田 賢治</div> </div> <div> <div>公共イメージ向上部門</div> <div>公共イメージ向上委員長 工藤 孝子</div> </div> <div> <div>社会奉仕・職業奉仕部門</div> <div>社会奉仕・職業奉仕委員長 岩岡 隆雄</div> </div> <div> <div>ロータリー財団部門</div> <div>ロータリー財団委員長 佐藤 健一</div> <div>地区補助金委員長 西尾 和樹</div> <div>グローバル補助金委員長 須藤 朗</div> <div>資金推進委員長 櫛引 大樹</div> <div>平和フェロシップ・奨学金・学友委員長 竹島 直樹</div> <div>ポリオプラス委員長(ガバナーノミニー) 成田 俊介</div> </div> <div> <div>国際奉仕・青少年奉仕部門</div> <div>国際奉仕委員長 柴田 文彦</div> <div>青少年交換委員長 岡山 信広</div> <div>ローターアクト委員長 竹内 知弘</div> <div>インターアクト委員長 松山 隆志</div> <div>RYLA委員長 三浦 基</div> </div> <div> <div>米山記念奨学部門</div> <div>米山記念奨学委員長 佐藤 一尚</div> </div> <div> <div>DEI推進部門</div> <div>DEI推進委員長 源新 育子</div> </div> <div> <div>ロータリーの友地区代表委員</div> <div>木下 一志</div> </div>	

大会2日目

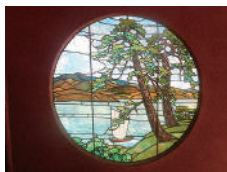
2024年10月13日(日)

16:30	閉会セレモニー	ガバナーエレクト 米谷 恵司
	ガバナーエレクト・ノミニー挨拶	ガバナーノミニー 成田 俊介
	次期地区大会開催クラブ挨拶	青森モーニングRC
	国際大会オンツーカーガリー	国際大会推進委員長 中山 佳
	国際ロータリー会長代理所感	R I 会長代理(甲府RC) 高野 孫左エ門
	ガバナー挨拶	ガバナー 花田 勝彦
	閉会点鐘	ガバナー 花田 勝彦

～ オルテンシアからプラザマリユ五所川原へ移動 ～

18:00	大懇親会	プラザマリユ五所川原 司会進行／(五所川原RC) 中山 佳 (五所川原RC) 佐藤 昭義
	オープニングアトラクション	五所川原立佞武多囃子 響会
	開会挨拶	ホストクラブ会長(五所川原RC) 寺田 明代
	ガバナー挨拶	ガバナー 花田 勝彦
	乾 杯	副ガバナー 築 館 智大
	記念品・花束贈呈(ガバナーよりR I 会長代理ご夫妻へ)	
	中締め	ガバナーエレクト 米谷 恵司
	ロータリーソング「手に手つないで」	
	閉 会	

エクスカーション 奥津軽大正浪漫巡り



- 10:40 オルテンシア出発→斜陽館→昼食(メバル膳)
→宮越家(離れ・庭園見学)→立佞武多の館
- 17:00 →各ホテルへ

来 賓

R I 会長代理
パートナー
青森県知事
五所川原市長
曹洞宗南アメリカ国際布教総監
パートナー

高野 孫左エ門(甲府RC)
高 野 まゆ美
宮 下 宗一郎 ビデオメッセージ
佐々木 孝 昌
清 野 暢 邦
清 野 月 世

地区外招待者

第2520地区 ガバナー
パートナー
第2540地区 ガバナー
第2590地区 ガバナー
第2600地区 ガバナー
パートナー
第2620地区 ガバナー
パートナー
第2660地区 ガバナーパートナー
第2680地区 ガバナーパートナー
第2720地区 ガバナー
パートナー
第2800地区 ガバナー
第2840地区 ガバナー
パートナー
第2580地区 ガバナーエレクト
一般社団法人 ロータリーの友事務所 理事・所長
第3330地区 ガバナー代理・パストガバナー
第3330地区 パストガバナー
パートナー
家族

佐 藤 剛(水沢RC)
佐 藤 裕貴子
佐 藤 和 志(田沢湖RC)
長 戸 はるみ(横浜東RC)
白 鳥 敬日瑚(佐久コスモスRC)
白 鳥 淑 子
小 泉 久 司(甲府西RC)
小 泉 優 美
大 橋 太美子(東大阪東RC)
矢 坂 ナヲ子(神戸西RC)
三 村 彰 吾(熊本りんどうRC)
三 村 知 子
芳 賀 康 雄(白鷹RC)
森 末 廣(桐生RC)
森 桂 子
中 川 雅 雄(東京浅草RC)
渡辺 剛(東京みなとRC)
Quanchai Laohaviraphap
Wichai Maneewacharakiet
Waraporn Maneewacharakiet
Thunyporn Maneewacharakiet

地区内パストガバナー

R I 元理事・パストガバナー
パストガバナー
パストガバナー
パストガバナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
パストガバナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
パストガバナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
パストガバナー
パートナー
パストガバナー
直前ガバナー(副ガバナー)
ガバナーエレクト
ガバナーノミニー

黒田正宏(八戸南RC)
関場慶博(弘前アップルRC)
島村吉三久(五所川原イヴニングRC)
笹森剛(弘前RC)
山崎淳一(五所川原RC)
山崎田鶴子
村井達(八戸RC)
村井精子
小山内康晴(弘前RC)
北山輝夫(八戸北RC)
工藤武重(弘前西RC)
工藤孝子(弘前東RC)
鈴木唯司(青森モーニングRC)
佐々木千佳子(十和田RC)
今井高志(弘前RC)
今井佐千江
沼田廣(青森RC)
源新和彦(八戸北RC)
源新育子(八戸北RC)
成田秀治(五所川原イヴニングRC)
成田了子
田中常浩(むつRC)
築館智大(八戸RC)
米谷恵司(青森モーニングRC)
成田俊介(弘前西RC)

参加ゲスト

●青少年交換

柴田 怜音(ROTEX) Wei-Min Lee(台湾)

●米山奨学生

マークボディー, ブンカニ(十和田東RC)

●ローターアクトクラブ

坂本 慎之介(むつRAC) 古川 晃 仁(むつRAC)

佐々木 花乃子(五所川原RAC)

●インターアクトクラブ(青森県立田名部高等学校IAC)

向井 姫 奏 小川 歩 希 三 國 紗 慧

郷 絢 音 村 中 有 咲



個性輝くロータリー

国際ロータリー第 2830 地区
2024-25 年度 地区大会

大会1日目



各種委員会

○13:00

○会場／ホテルサンルート五所川原

登録委員会

会場／2階アクアの間

委員長

築館 智大

東第1グループガバナー補佐

蛭沢 公洋

西第1グループガバナー補佐

小田桐 浩



信任状委員会

会場／3階金扇の間

委員長

田中 常浩

西第2グループガバナー補佐

成田 学

南グループガバナー補佐

島浦 理

決議委員会

会場／3階金扇の間

委員長

成田 秀治

東第2グループガバナー補佐

佐々木紀仁

中グループガバナー補佐

蝦名 正治



諮問委員会

○14:00～15:00

○会場／2Fクリスタルの間

《議案》

1. 2023-24築館年度の財務報告
2. 登録委員会の報告
3. 信任状委員会の報告
4. 大会決議案の評決
5. 地区の会員増強について
6. 「超私の奉仕賞：会員の貢献を称える」推薦について
7. その他報告事項



諮問委員会出席者

ガバナー	花 田 勝 彦	五所川原RC
バストガバナー	黒 田 正 宏	八戸南RC
バストガバナー	関 場 慶 博	弘前アップルRC
バストガバナー	島 村 吉三久	五所川原イブニングRC
バストガバナー	笹 森 剛	弘前RC
バストガバナー	村 井 達	八戸RC
バストガバナー	小山内 康 晴	弘前RC
バストガバナー	北 山 輝 夫	八戸北RC
バストガバナー	工 藤 武 重	弘前西RC
バストガバナー	鈴 木 唯 司	青森モーニングRC
バストガバナー	佐々木 千佳子	十和田RC
バストガバナー	今 井 高 志	弘前RC
バストガバナー	沼 田 廣	青森RC
バストガバナー	源 新 和 彦	八戸北RC
バストガバナー	成 田 秀 治	五所川原イブニングRC
バストガバナー	田 中 常 浩	むつRC
直前ガバナー	築 館 智 大	八戸RC
ガバナーエレクト	米 谷 恵 司	青森モーニングRC
ガバナーノミニー	成 田 俊 介	弘前西RC
2023-24地区幹事長	石 橋 信 雄	八戸RC
2024-25地区幹事長	木 村 重 介	五所川原RC
2025-26地区幹事長	最 上 伸 子	青森モーニングRC
2023-24地区財務委員長	小 林 幹 夫	八戸RC

会長・幹事会

○15:00～15:50

○会場／2F萬葉の間

《議案》

1. 2023-24年度決算・監査報告承認の件（決議事項）
2. 大会決議案の説明（報告事項）

《議事》

第1号議案につき、小林幹夫2023-24年度地区財務委員長より2023-24年度監査についての報告と決算内容の説明があり、挙手により採決したところ、出席者の過半数の承認を得られたため、可決承認された。



第2号議案につき、成田秀治地区大会決議委員長から説明がなされた。決議案の採決は、翌日の地区大会本会議において行うこととなった。

大会決議文 2024-25 年度

決議第1号

国際ロータリー会長ステファニー A. アーチック氏提唱の本年度のテーマの実現に努力する件

ステファニー A. アーチック RI 会長は、本年度の国際ロータリーのテーマとして「The Magic of Rotary (ロータリーのマジック)」を掲げられました。私たちは、このテーマへの敬意を表し、行動計画を推進するほか、会長イニシアティブとして示された事項の実現に努力することを決議いたします。

決議第2号

国際ロータリー第2830地区花田勝彦ガバナー提唱の本年度地区スローガン推進の件

2024-25年度花田勝彦ガバナーは、本年度地区スローガンとして「個性輝くロータリー」を掲げました。私たちは、他者への思いやりをもったロータリー活動を通じて、これを推進し、5つの重点事項の実現に努力することを決議いたします。

決議第3号

国際ロータリー会長代理派遣に対する感謝の件

本地区大会開催にあたり、ステファニー A. アーチック RI 会長はご自身の代理として、国際ロータリー第2620地区パストガバナーである高野孫左エ門氏(甲府 RC)を派遣してくださいました。

そのご厚意とご配慮に対し、深甚なる感謝の意を表することを決議いたします。

決議第4号

国際ロータリー会長代理高野孫左エ門氏に対する感謝の件

国際ロータリー会長代理高野孫左エ門氏は本大会にご臨席くださり、ステファニー A. アーチック会長のメッセージを伝達されるとともに、国際ロータリーの現況について詳細にご報告され、また講演では参加者一同に深い感銘を与えて下さいました。

高野孫左エ門会長代理の温かなご指導に対して記念品を贈るとともに、心から敬意と感謝の意を表することを決議いたします。

決議第5号

国際ロータリー第2830地区直前ガバナー築館智大氏に対する感謝の件

国際ロータリー第2830地区直前ガバナー築館智大氏は、ゴードン R・マッキナリー直前会長の掲げた CREATE HOPE in the WORLD「世界に希望を生み出そう」のテーマのもとに、1年間卓越した指導力を発揮されました。

本大会は、築館智大直前ガバナーに対し、その功績を讃え、心より感謝の意を表することを決議いたします。

決議第6号

2023-24年度 国際ロータリー第2830地区の財務監査報告書採択の件

2023-24年度、当地区財務に関する年次監査報告が各クラブに対して行われました。よって本大会ではこれを承認し、国際ロータリー細則第15条、15.060.4に基づき、この監査報告を正式に採択することを決議いたします。

決議第7号

国際大会への参加推進の件

2024-25年度国際大会は2025年6月21～25日の5日間、カルガリー(カナダ)で開催されます。ステファニー A. アーチック会長は多くのロータリアンと家族の参加を希望されております。世界各国のロータリアンとの友好親善と当地区の親睦を図るため、多数のロータリアンと家族の参加推進に努めることを決議いたします。

決議第8号

地区大会開催地の五所川原市並びに五所川原市民に対し感謝の意を表する件

2024-25年度地区大会を五所川原市において開催するにあたり、五所川原市並びに五所川原市民のロータリーに対する深いご理解と多大なるご支援を賜りましたことに対し、深甚なる感謝の意を表することを決議いたします。

決議第9号

本大会のホスト、コ・ホストクラブ並びに関係諸団体に対して謝意を表する件

2024-25年度国際ロータリー第2830地区の地区大会は、多数の参加を得て盛大かつ成功裡に挙行することができました。これは、ひとえにホストクラブの五所川原ロータリークラブ及びコ・ホストクラブの金木、鯉ヶ沢、鶴田、五所川原中央、つがる、五所川原イヴニングロータリークラブの会員、ご家族並びに会友の熱意あふれる献身的な奉仕活動と五所川原市内諸団体の深いご理解とご協力の賜物であります。よって、本大会において、これら関係者全てに対し、深甚なる感謝の意を表することを決議いたします。

決議第10号

次年度地区大会開催に関する件

2025-26年度国際ロータリー第2830地区の地区大会は青森モーニングロータリークラブをホストクラブとして2025年10月25日(土)～26日(日)の2日間にわたり青森市において開催することを決議いたします。

決議第11号

令和6年能登半島地域災害に対する継続的支援を行うことに関する件

令和6年1月1日に発生した能登半島地震から10カ月が経過しましたが、復旧復興にはまだまだ多くの時間がかかることが見込まれております。加えて、9月21日からの能登半島の豪雨被害でも同じ地域に大きな被害が発生し、今後も継続的な支援が必要です。国際ロータリー第2830地区では引き続き地区の行事等でご支援を呼びかけ、息の長い支援を継続することを決議いたします。



指導者育成セミナー

第1部 基調講演

「今あらためてロータリーを考えよう」

RI会長代理
第2620地区パストガバナー

高野 孫左エ門 (甲府RC)



1. RI会長テーマとロータリーの変革

講演は、まずステファニー A. アーチックRI会長のテーマ「ロータリーのマジック」の解説から始まりました。会長は、「変わりゆく世界の中で、クラブがじっと立ち止まっている余裕はない」と述べ、旧態依然とした構造に留まらず、変革を目指し、行動計画に基づいた活動を通じてロータリーはマジックをもたらすと提言しています。

- 行動計画とビジョン実現：行動計画は「より大きなビジョンに向けて支え合うような、戦略的に一貫したもの」である必要があり、この計画を通じてクラブ内で効果的な変化を生み出すことが求められています。
- 太宰治との縁：高野氏は甲府(太宰治が「富嶽百景」や「新樹の言葉」を執筆し、2度目の結婚後に住んだ地)との縁を紹介し、甲府を「きれいに文化の、しみとおっているまち」と評した太宰の言葉を引用しました。

2. ロータリーの根幹を問う五つの質問

ロータリー活動の中核を再確認するため、参加者に以下の五つの質問を投げかけました。

1. なぜロータリークラブに入会しましたか？(多くは誘われたことがきっかけだが、掘り下げると新たな人間関係の構築を求めている)
2. ロータリークラブの会員とはどんな人たちですか？(自らの職業が地域社会の役に立つよう研鑽努力している人、人間力を磨き上げようとしている人)
3. ロータリークラブって何をしていますか？(様々な職業を持つ人が集まり、交流を通じてお互いに研鑽し合い、刺激を交換する場、例会がその肝となる)
4. なぜロータリークラブ会員であり続けるのですか？(ロータリーの理念を理解し、自分の価値観に合うと感じたから。自分自身が変化していくことを実感できる「居心地の良いクラブ」だから)
5. あなたとクラブを代表する活動は何ですか？(世界中のロータリアンが目指すポリオ根絶など、胸を張って言える「良いこと」を実行していること)

3. クラブの現状認識と活性化への期待

当地区(2830地区)の会員数は、2018年をピークに減少傾向にあり、近隣地区との合併決議(2026年7月1日までに1100人超維持)の課題があることを共有しました。一方で、女性会員比率が日本の34地区中3番目と高いことは、クラブ文化の開放性を示す素晴らしい数字であると評価しました。

- クラブ会長の役割：会長は「効果的運営によりクラブを元気(活性)にし、前年度よりもクラブを「成長(Grow)」させ次年度の会長にバトンを渡す」ことが期待されます。

- 元気なクラブの定義(明朗なルールブック)：会員基盤の維持・拡大が第一歩であり、奉仕プロジェクトの実施、ロータリー財団の支援、クラブレベルを超えて奉仕できる指導者の育成が必要であると確認しました。

4. ロータリーの「不易」と「流行」の構造

ロータリーが119年の歴史の中で、「変えざるべきもの(不易)」と「変えるべきもの(流行)」をどのように考えてきたかについて、価値観の体系として整理しました。

分 類	要 素	概 要
共有され続ける価値観（不易）	ロータリーの目的、四つのテスト、中核的価値観など	奉仕の理念が核となる。
目指す姿（流行）	ビジョン声明	「持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界」を目指す。
実現に向けた指針（流行）	行動計画、財団7つの重点分野	変化認識と対応が必要。
実現のための基盤（不易）	日々の研鑽、五大奉仕（職業奉仕）	地域社会における持続可能なクラブであり続ける。

この構造において、国際ロータリーは入会動機をリサーチし、以下の4点に整理されたことが、行動計画と対応していると説明されました。

入会動機(アンケート結果)

入会動機（アンケート結果）	行動計画（優先項目）
地域社会奉仕活動をしたいから	より大きなインパクトをもたらす（ポリオ根絶など）
友情と親睦	参加者の基盤を広げる（楽しい例会、多様性）
地域社会を超えた奉仕	参加者の積極的なかわりを促す（持続可能な活動）
プロフェッショナルおよびリーダーシップ開発の機会	適応力を高める（クラブの柔軟性と継続性）

5. クラブ経験の質を高めるための提言

会員が入会後にクラブに求める経験を以下の5つに整理し、これらを達成するためのクラブ運営の工夫が求められていると強調しました。

1. 例会の楽しみ：会員が受け入れられ、楽しいと感じる例会。
2. クラブ指導者への信頼：意見を聞き入れ、適切な決定と変化をもたらす対応。
3. 自己成長の機会：スキルを磨き、新しい価値観をもたらす経験。
4. つながり：貴重な人間関係を築ける場。
5. 意義ある奉仕：一人ではできない、社会のためになる活動への参加。

6. 3年計画とロータリーの仕組みの活用

- 3年計画(3-Year Targets & Plans)：2024年～2027年を対象とした計画を立て、ローリングしていくこと

で、持続的なクラブ活動を目指します。ロータリー財団のシェアシステム(3年運用)のサイクルとも関連付け、将来的なグローバル補助金活用などを見据えた計画の重要性を説きました。

- **ロータリーの仕組みの活用**：国際ロータリーの定款・細則やロータリー財団、日本青少年他地区合同事業機構(RIJYEM)、RLI、米山記念奨学会などの多岐にわたる支援機能が、クラブ活動を支援する「玉手箱のような仕組み」であるとし、これらを活用する知恵と学習(ロータリーの友アーカイブの活用など)が必要だと述べました。

7. リーダーシップと未来への展望

講演の締めくくりとして、リーダーシップの発揮を改めて求めました。リーダーの役割は、ビジョンを明確にし、メンバーを勇気づけ、動機付け、価値を共有する「環境整備」を行うことです。

- **「個性輝くロータリー」の実現**：各クラブが地域の特性を活かし、ニーズに応えられる存在となることが、花田ガバナーが掲げる「個性輝くロータリー」の実現に繋がります。
- **結びの言葉**：豊田佐吉翁の「障子を開けてみよ 外は広いぞ」という言葉を引用し、現状という「こたつ」に留まらず、勇気をもって外の世界(クラブの可能性、地区の経験、ロータリーの力)に触れることで、自分自身の新しい価値観を得てほしいと期待を込めて語りました。

第2部 オープンフォーラム

「Grow Rotary の実践」

ファシリテーター
第2830地区パストガバナー

山崎 淳一 (五所川原RC)

第2830地区ガバナー

花田 勝彦 (五所川原RC)

アドバイザー
RI会長代理
第2620地区パストガバナー

高野 孫左卫門 (甲府RC)



- **成長の焦点**：議論の焦点は、ロータリークラブとしての成長、およびロータリアンとしての個人の成長をいかに実現するかという点に置かれました。

1. フォーラムの目的と「Grow Rotary」の重要性

本オープンフォーラムは、基調講演を受けて、ロータリーの組織と個人の「成長(Grow Rotary)」をテーマに設定し、その実践方法について議論するために開催されました。

- **Grow Rotaryの共通性**：進行の山崎PGは、過去のRI会長たちがイニシアチブ(ジェニファー・ジョーンズ会長のDEI、ゴードン・マッキナリー会長のメンタルヘルスなど)は異なっても、「Grow Rotary」という言葉を共通して使用しており、ロータリーを成長・育成させるという目的の下に様々なアプローチが取られてきたと指摘しました。

2. 「3年間のローリング計画(3-year rolling target)」の課題と意義

RIが推進する「3-year rolling target」について、現行のロータリーの仕組みとの整合性が主要な論点となりました。

論点：制度上の課題について(沼田PG)

企業の中期計画と異なり、ロータリーは1年で会長が交代するため、2年後・3年後の執行部が計画に責任を持たず、実効性のない計画になるのではないかという懸念を表明しました。また、従来のクラブセントラル(1年目標)がどうなるのかを質問しました。

論点：RIの方針と目的について(高野氏)

アーチックRI会長の言う「一貫性」を確保し、これまでの「不連続の連続」を改め、活動に継続性・持続性を持たせることが目的であると解説しました。会長ノミニーが未定であっても、会長エレクトまでを含めて「出来る所から着手」し、活動を積み上げていくべきであると述べました。クラブセントラルの様式も3年間の計画を記載するフォーマットに変わるとの情報が共有されました。

論点：地区での実践について(花田ガバナー)

地区では既にジャパンポータルでエクセルのひな形を紹介し、ノミニー未定のクラブには、直前会長、会長、エレクトの3人でクラブの将来を議論し、計画を策定するよう要請していると報告しました。計画策定を通じて、クラブの将来を議論することが最大の目的であると強調しました。

論点：挑戦の意義(高野氏)

3年計画が実現できなくても「頑張ってるね」で終わるものであり、計画が完璧でなくても、チャレンジする姿勢と、その結果から何が生じ、何が足りなかったかを学ぶことが最も重要であると述べました。

論点：地区での実践と注意点(長戸D2590DG)

自身の地区(横浜)では既に全クラブに3年間の目標と計画を提出してもらっており、ノミニーがないクラブにはクラブ内で模索するよう要請していると報告しました。ただし、「現会長、会長エレクト、ノミニーの3人だけで決める」と誤解するクラブがあったため、「3人を中心としてクラブ全体で話し合いをすること」が計画策定の目的であると修正した経験を共有しました。

論点：現場での実践例

十和田八甲ロータリークラブがノミニーまで決まっている体制を活かし、試験的に3年計画を作成している事例が紹介されました。

3. 個人の成長と組織の活性化

ロータリアン個人の成長とクラブの魅力向上に不可欠な要素が議論されました。

- **個人の成長の重要性**: 白鳥2600地区ガバナーは、個人の成長なくしてロータリーの成長はないという意見が出され、ロータリアン一人ひとりが日々成長し、世の中の平和と繁栄のために活動していくことが重要であると強調されました。米谷ガバナーエレクトは、クラブ(会員育成)と地区(クラブ支援)の役割を明確に分ける意識が必要であると指摘しました。

- **帰属感と積極的な関わり**: 高野氏は、ジェニファー・ジョーンズ会長時代から特徴的な言葉として、「帰属感(Belonging)」と「積極的な関わり(Engagement)」を挙げました。成長した個人がクラブに帰属感を持ち、誇りを持って情報発信することが、「ああいう人がいるからこのクラブに入ってみたい」と思わせるロータリーの魅力に繋がると述べました。

◇Engagementは、経営学でいう個人の「自己実現」の目的と、組織の「経営理念の実現」の目的が一致し、良い関係にある状態であると補足されました。

4. Grow Rotaryの実践事例と提言

- **対外広報の工夫(芳賀D2800DG)**: 山形県(2800地区)では、奉仕活動のメディア露出の少なさを課題とし、3年間継続する「最上川物語」という統一テーマを設定して「ロータリー奉仕デー」を実施。ガバナー補佐の協力を得て多くのクラブを巻き込み、活動を一つの物語として展開することで、メディアに取り上げられ、「ロータリーが何をやっているのか」という理解促進に繋がっている事例を紹介しました。
- **世界基準での実践(小泉D2620DG)**: 4つの行動計画は世界基準であり、日本のロータリーだけでなく全世界のクラブがこれに基づいて活動することが、クラブ、地区、会員それぞれの成長に繋がると述べ、先行して着手することの重要性を強調しました。

5. 結論：挑戦と出会いへの期待

結びとして、豊田佐吉翁の「障子を開けてみよ外は広いぞ」という言葉に込められたメッセージが再度強調されました。

- 「障子の向こう」には、自分の想像を超えた新しいヒントや答えがあり、それに挑戦することを恐れるべきではない。
- 障子を開けることで、人や生き方、価値観など、様々な「出会い」が生まれ、その出会いが一度きりの人生をより魅力的なものに変えていく。

参加したクラブリーダーに対し、今日の出会いを活かし、積極的にロータリーの可能性に触れる経験を積み重ねてほしいという期待が述べられました。

RI 会長代理ご夫妻 歓迎晩餐会

18:00 ～ ホテルサンルート五所川原





個性輝くロータリー

国際ロータリー第 2830 地区
2024-25 年度 地区大会

大会 2 日目



オープニングアクト

新宮団地こども園のみなさん





RI会長メッセージ

2024-25 年度

国際ロータリー会長

ステファニー A. アーチック

McMurrayRC

(米国ペンシルバニア州)

ロータリー地区大会にご出席の皆さまにご挨拶申し上げます。多くのロータリーファミリーと会うことのできる地区大会は、これまでの成果を振り返り、クラブを超えたネットワークを広げ、次年度のためのアイデアを交換する場となります。

ロータリアンである私たちを駆り立てるのは、奉仕へのコミットメントです。私たちは、自分よりも大きな何かに貢献することを望みます。地区大会では、社会奉仕への情熱を深め、インスピレーションを与えあい、ロータリーの奉仕を新たな高みへと導くことができます。

地区大会はまた、新たな奉仕に対する会員の意欲を引き出す特別な機会となります。ロータリーの成功にとって大切なのは、ロータリーファミリー全員が帰属意識を持つことあり、地区大会はそのためにロータリー行動計画を取り入れるチャンスです。

支えあい、励ましあうことで、私たちは分断された世界に永続的な変化をもたらすことができます。

この地区大会が、皆さまとクラブが互いに、そして地域社会に支援を提供するための活力をもたらすことを願っております。協力し、支えあうことで、「ロータリーのマジック」で世界に変化をもたらすことができると信じております。

心を込めて

Stephanie A. Archuck



RI会長代理挨拶

RI 会長代理
第 2620 地区パストガバナー
高野 孫左エ門

甲府 RC

皆様、おはようございます。

国際ロータリー会長代理として、第2830地区2024-25年度地区大会に出席させていただきましたことになりました、高野孫左エ門と申します。

昨日から当地に入り、指導者育成セミナーを担当させていただきました。

まずは、花田ガバナーをはじめ、皆様が心から力を合わせ、心を込めてご準備、ご開催されましたことに、心よりお礼を申し上げます。

この地区大会が、ご参加の皆様にとって、所属されるクラブが、変化する社会環境の中でロータリーの奉仕の理念を実現できる存在へと変わっていくためのきっかけとなり、ヒントを得る場としてご活用いただけることを期待しております。

アーチック国際ロータリー会長のメッセージにございましたが、後ほど「国際ロータリーの現況」というタイトルで、会長のお話をもう少し具体的にお伝えしたいと考えております。

皆様は「啐啄同時」という言葉をご存知でしょうか。これは、雛が卵から外に出ようとする瞬間を捉え、親鳥が外から殻を破る手助けをする状況を表します。タイミングが重要であり、外の親鳥の行動と、中で求められていることが一致したときに、物事が成就するという意味合いで使われます。

私たちロータリーは、奉仕の理念を実現するに際して、社会が何を求めているのかを「知る力」「知ろうとする関心・好奇心」を持つことが大切だと考えます。社会が必要としていることに応えることができる、「社会のためになる、役に立つ存在」としてのロータリークラブの存在、そしてそれを構成するロータリアン一人ひとりの「生き方、考え方、社会への参加の仕方」が、コロナ禍を経て変化してきています。このことは、産業界の大きな潮流の中にも現れ始めているのが現状です。

このことを受け、花田ガバナーは「個性輝くロータリー」というテーマ、スローガンを掲げられました。これは、ロータリーがどこにいても一色ではなく、それぞれの地域社会に根ざし、その地域のことを知り、必要に応えようとするクラブをしっかりと作り上げていくという思いが込められていると理解しております。

繰り返しになりますが、この地区大会を、皆様のクラブが今後の持続可能な存在として力をつけていかれるためのきっかけとし、そのインスピレーションやアイデアを学ぶことができる大切な機会として、ご活用いただければと願い、五所川原に参りました。

力不足ではございますが、精一杯務めさせていただきますので、限られた時間ではございますが、この第2830地区の地区大会を楽しませていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。よろしく願いいたします。



ガバナー挨拶

2024-25 年度
国際ロータリー第 2830 地区
ガバナー

花 田 勝 彦

五所川原RC

10月の秋晴れのもと、国際ロータリー(RI)第2830地区の地区大会に、ステファニー・A・アーチックRI会長の代理として、RI第2620地区パストガバナーの高野孫左エ門様、まゆ美様ご夫妻をお迎えし、ここ五所川原市で開催することができました。

宮下宗一郎青森県知事、佐々木孝昌五所川原市長、タイ3330地区、同期ガバナーの皆様を始めとする多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、県内外のロータリアンとロータリーファミリーの皆様にお集まりいただいたことに対し、まずは心より感謝申し上げます。

アーチックRI会長の「ロータリーのマジック」というテーマは、ロータリーの活動によって恩恵を受けた人の生活が変わり、それに関わったロータリアン自身の人生観や世界観も変わることを「マジック」と表現しています。魅力的なクラブ体験、積極的平和、継続性と変化のバランスといったイニシアティブの根底にも、他者への思いやりを持った活動がマジックを起こすのだと言っているような気がいたします。

この地区大会のテーマは、今年度の地区スローガンでもある「個性輝くロータリー」といたしました。アーチック会長のテーマを受けて、このスローガンに込めた思いは、ロータリアンも、ロータリアン以外の人も、自分自身の個性を十分に発揮できるロータリーを目指すと同時に、他人の個性をも同じように重視する思いやりのある立ち振る舞いができるロータリーでありたいということと、私たちのような小さい地区、メンバーが少ない小さなクラブでも、ロータリーの理念に沿った充実した活動を継続することで社会に貢献し、平和に繋がる大きな成果をあげることができるはずであるということにあります。

昨日の大会1日目は、高野会長代理の「今改めてロータリーを考えよう」と題する基調講演で、ロータリーの不易流行とアーチック会長の進める行動計画をどのように考えていけば良いのかを大変分かりやすくお話し下さいました。「Glow Rotaryの実践」と題するオープンフォーラムでは、3Year Rolling Goalsについての有意義な意見交換をすることができました。そして、夜の晩餐会では、参加者が大いに親睦を深める機会となったと思います。

本日2日目は高野会長代理のRI現況報告、午後からはパネルディスカッションとして、当地区の黒田正宏元RI理事、関場慶博元RI研修リーダーにご登壇いただき、これまでのロータリーライフとこれからのロータリーについてのお話を伺い、当地区のこれから先の姿を参加者の皆様と一緒に考える機会にしたいと思います。

そして、記念講演は、清野暢邦氏の「一即一切 一切即一」～個性と全体、全体と個性。暑くて篤い南米事情～と題して、興味深いお話しが聞けるものと楽しみにしております。

これらのプログラムを通じて、ご参加の皆様と一緒に、未来の第2830地区が目指すべきロータリーのあり方を考え、行動する意欲を起こす機会にしたいと思っております。

寛容や倫理訓という伝統的なロータリーの理念にもあった思いやりの心は、時を超えた現代においても色あせることなく私たちの奉仕活動に一筋の光を与えています。ロータリーの奉仕の理念に則った活動を継続することが人格を磨き、個性を輝かせることになる。それこそが私たちのロータリアンとしての目的であるはずです。

この地区大会では、参加者一同で今年の1月1日の能登地震、9月21日の能登豪雨に心を寄せ、継続的な支援をしていきたいという思いを共有したいと考えています。8月に私自身が石川県輪島市を訪れた際のレポートを、ロビーのパネルに展示してございますのでご覧いただければと思います。

もう一つ、ロータリー活動の原点には楽しさが必要です。地区大会はお祭りであり、多くのロータリアンが参加し、交流して、行動することでロータリーを楽しむ機会です。参加者の皆様には、夜の晩餐会、懇親会、さらには二次会で、大いに交流し、親睦を深めて楽しんでいただければ幸いです。

最後に、この地区大会の準備に当たった実行委員会のメンバー、ホストクラブの五所川原ロータリークラブ、西第一グループのコ・ホストクラブの皆様に感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

今日も一日、よろしくお願いいたします。





開会挨拶

2024-25年度
国際ロータリー第2830地区
大会実行委員長
敦賀 鉄 正

五所川原RC

おはようございます。大会実行委員長の敦賀と申します。開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

大会テーマ「個性輝くロータリー」の通り、まさに個性が輝く祭り「立佞武多」。その立佞武多の街、奥津軽・五所川原に、ようこそお越しをいただきました。心より歓迎申し上げます。

本日は、国際ロータリー会長代理高野孫左エ門様ご夫妻をはじめ、地区内外のガバナー、パストガバナーの皆様をお迎えし、また、五所川原市長佐々木孝昌様、講師の清野暢邦様をはじめとするご来賓の皆様のご臨席のもと、多くのロータリアンの皆様とともに、この地区大会を開催することができましたことに、厚く御礼申し上げます。

この地区大会での学びと親睦を一つの契機として、ご参会の皆様が、今後のロータリー活動において個性を発揮され、輝かしい活動の成果を収めていただくべく、そのように心から願い、大会実行委員会一同、ホストクラブ並びにコ・ホストクラブのご協力のもと、大会の企画・準備を進めて参りました。

しかしながら、不行き届きの点多々あるかと存じます。失敗も学びと気づきの第一歩として、なにとぞ、ロータリアンの寛容の心をもってお許しをいただきましたら、幸いに存じます。

どうぞ、最後まで五所川原大会を多いに楽しんでいただきますよう、お願い申し上げます。



来賓祝辞(ビデオメッセージ)

青森県知事

宮 下 宗一郎

おはようございます。

国際ロータリー第2830地区大会が、県内各クラブの会員の皆様の御参加のもと、開催されますことを心からお祝い申し上げます。

花田地区ガバナー、敦賀地区大会実行委員長をはじめ、会員の皆様におかれましては、日頃から、世界の人々の幸福と平和を目指し、青少年の健全育成や環境保全など、地域のニーズに応じた様々な社会奉仕活動に加え、海外への医療機器支援やポリオ撲滅に向けた国際貢献など、様々な支援活動を展開されているところであり、その献身的な取組に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

また、令和3年8月に下北及び上北を中心に発生した大雨災害や、令和4年8月に津軽地方を中心に発生した大雨災害に際しては、支援金を御寄附いただいたことに加え、令和3年8月の大雨災害の際には支援物資をいち早く提供いただきました。ロータリークラブ会員の皆様の温かいお志と御厚意に改めて深く感謝申し上げます。

さて、県では今年度からスタートした、県政運営の新たな基本方針である「青森県基本計画『青森新時代への架け橋』」において、2040年における本県のめざす姿を「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」とし、各種施策を積極的に推進しているところです。めざす姿を実現していくためには、一人でも多くの若者が、青森県で人生を送ることに多様な可能性を見だし、「ここで暮らしたい」と思える魅力ある県にしていかなければなりません。

こうした中、郷土や地域に愛情を持ち、地域を支えるためのボランティア精神にあふれた皆様が、「個性輝くロータリー」を地区スローガンに掲げ、精力的に活動されていることは、大変有難く、また心強く思っております。

今後とも、「青森新時代」の実現に向けて、県民の皆様と共に県政を着実に前に進めていきますので、皆様には、より一層のお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、国際ロータリー第2830地区のますますの御発展とともに、会員の皆様の御健勝とさらなる御活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。本日はおめでとうございます。



来賓祝辞

五所川原市長

佐々木 孝 昌

国際ロータリー第2830地区2024-25年度地区大会が、大会テーマ「個性輝くロータリー」のもと、五所川原市において盛大に開催されますことを衷心よりお祝い申し上げ、各地からお越しのロータリアンの皆様方を市民を代表して心より歓迎申し上げます。

ロータリークラブの皆様には、高い倫理観と崇高な奉仕の理念のもと、世界平和の推進、青少年の育成、環境保全など、幅広い分野での国際的な社会奉仕活動、人道支援活動とともに、地域に密着した様々な奉仕活動を積極的に実践され、地域経済の発展をはじめ、より良い地域社会づくりに大きくご貢献いただいていることに、深甚なる敬意を表します。

また、第2830地区の皆様には、これまで当市に対し、災害復旧への支援金をはじめとする多大なるご寄附のほか、市政推進にご理解とご支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

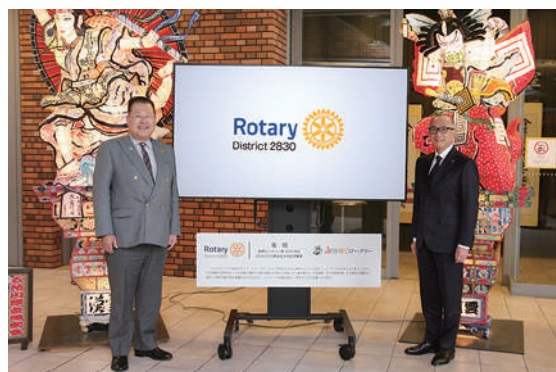
さて、近年、人口減少や少子高齢化の急速な進行、グローバル化、デジタル化の進展など、社会を取り巻く環境が大きな変化の時を迎える中、将来にわたって持続可能な地域づくりを進めていくためには、そこに暮らす人々が地域に誇りと愛着を持ち、共に手を携えて、地域が抱える課題に取り組んでいくことが大切です。

市といたしましても、地域の皆様が安心して暮らすことができるよう、市民や民間団体、行政が一体となった「共に支え合うコミュニティ」の実現に向け、鋭意取り組んでまいりますので、皆様には、本大会を契機として友情と親睦、連携をより一層深めていただき、今後とも地域社会のリーダーとして、地域の発展と社会福祉の向上のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にご尽力された花田ガバナーをはじめ、関係各位に深く敬意を表しますとともに、国際ロータリー第2830地区の益々のご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

記念事業紹介・目録贈呈

五所川原市「立佞武多の館」 デジタルサイネージ



公益財団法人 米山梅吉記念館 寄付金 10 万円



物故者ご芳名

2023年7月以降、お亡くなりになりました地区内ロータリアンの方々です。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略)



板柳RC会員

三戸 義仁

2023年10月12日ご逝去



五所川原中央RC会員

木村 吉幸

2024年3月11日ご逝去



大鰐RC会員

成田 文治

2024年3月19日ご逝去



八戸RC会員

石橋 敏文

2024年8月26日ご逝去



青森モーニングRC会員

新岡 壮太郎

2024年9月22日ご逝去

各種委員会報告

登録委員会

委員長

築 館 智 大



登録委員会は昨日10月12日13時00分から行われました。

東第1グループガバナー補佐 東北ロータリークラブ蛸沢公洋さん、西第1グループガバナー補佐 五所川原イブニングロータリークラブ小田桐浩さんと私の3人で本大会の登録状況を確認しました。

その結果をご報告いたします。

- ・国外会員及びご家族 4 名
- ・国内は地区外会員及びご家族17名
- ・ゲストは、ご来賓を含め18名
- ・地区内の登録者は会員357名、家族 7 名の計364名
- ・その他関係者2名、総計は405名でした。

国外及び地区内外から集まってくださった皆様の友情に、感謝申し上げます。

信任状委員会

委員長

田 中 常 浩



信任状委員会は、昨日10月12日、13時00分から行いました。

この委員会は本大会で特別の議決を要する事柄があった場合、皆様のクラブから提出されました選挙人の資格を審査する委員会でございます。

7月1日現在、この第2830地区40のロータリークラブの会員は1,098名ですので、選挙人は合計53名ということになります。

本委員会にて西第2グループガバナー補佐 弘前アップルロータリークラブ成田学さん、南グループガバナー補佐 八戸西ロータリークラブ島浦理さんと私の3人で、各クラブから提出された信任状証明書を慎重に精査いたしました。

結果、総員適格者と認めましたのでご報告申し上げます。

決議委員会

委員長

成 田 秀 治



※決議案(第1号から第11号)については、P10～11をご参照下さい。

決議委員長から上記決議案が朗読され、会場にその賛否を諮ったところ、拍手をもって全議案が承認された。



現況報告等

国際ロータリー 現況報告

RI会長代理
第2620地区バストガバナー

高野 孫左エ門

甲府RC



1. はじめに

皆様、本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。

(※この後に、太宰治氏と五所川原・甲府との関係についての言及がございましたが、報告書原稿のため割愛させていただきます。自己紹介につきまして、資料をご覧ください。)

2. ロータリークラブに関する 五つの問いかけ

ロータリアンへの質問

- ☆なぜロータリークラブに入会しましたか
誘われたから。奉仕の機会を探していた。ロータリーに入りたかったから。
- ☆ロータリークラブの会員とはどのような人達ですか
自ら従事している職業が、所在する地域社会の中で役に立つ、ためになるものとなるよう、日々研鑽努力している人たち。→人間力を磨き上げている!!
- ☆ロータリークラブはどのような事を行っているのですか
上記のような人々が交流することによりお互いの研鑽を行う場として例会を開催している。また、その人たちが一体となり、地域社会・世界が必要とする事に
応える活動を行っている。
- ☆なぜロータリークラブ会員であり続けているのですか
理念と指針、あるいは活動が自らの価値観と一致している。居心地が良い。
- ☆あなたのクラブを代表する活動は何ですか？
実施してきた「よいこと」を、会員歴の長短に関わらず共有し語り合う機会を設けて
みるのが望まれる。

報告に先立ち、昨日もお話しさせていただきましたが、皆様に五つの質問をさせていただきたいと思っています。

1. なぜ皆様はロータリークラブに入会されたのでしょうか。

私の場合は、「誘われたから」というのが、最も正直な答えでございます。

2. ロータリークラブの会員とは、どのような人たちなのでしょう。

奉仕の理念やロータリーの目的といった言葉が先ほどから出ておりますが、皆様はお友達やご家族など、ロータリーに関係のない方に、ロータリーの会

員とはどのような人たちであると説明されていますでしょうか。

私の答えは、「自らが従事する仕事が社会の役に立ち、ためになるようなものになるように、日々研鑽努力している人たちがロータリーの会員であると考えております。

3. ロータリークラブは、どのような活動をしているのでしょうか。

英国の作家であるバーナード・ショーは、「ロータリアンはどこへ行くのか。昼飯を食べに行く」と皮肉交じりに表現しました。皆様のクラブはいかがでしょう。例会は楽しく、行ってみたいと思えるようなプログラムの工夫がなされているのでしょうか。この問いの答えは、先ほど申し上げた「研鑽努力している方々がお互いに刺激を交換し合う場」として、あるいは「自分の業界や日常を超えた範囲での情報交換をする場」として、集うのが例会であると考えております。その例会をしっかりと展開しているというのが、正直な答えではないでしょうか。

4. なぜロータリークラブの会員であり続けるのでしょうか。

入会後3年未満の退会者が、新入会員の40%程度に上るという話をよく耳にいたします。なぜでしょうか。皆様は、今でもロータリアンでいらっしゃるのなぜでしょうか。

恐らく、先ほど申し上げた例会や、ロータリークラブが与えてくれる様々な機会を、ご自身のものとしてしっかりと楽しんでいらっしゃるから、継続されている理由ではないかと思います。

5. あなたのクラブを代表するプロジェクトや活動は、何でしょうか。

日本の国内には1,600を超えるクラブがございますが、全てのクラブがこの問いに同じ答えをすることはございません。この問いをご自身に問いかけることが、答えになるのではないのでしょうか。

そうは言いますが、皆様のクラブがこれまで展開してこられた様々な活動や実績がおりになるはずで、そうしたものをもう一度振り返って確認してみる機会こそ、周年のタイミングになるのではないかと思います。

この五つの問いについて、どうか皆様もクラブの中で、もし機会があれば、お互いに問いかけ合ってみていただきたいと思います。

3. ステファニー・アーチック会長のメッセージとビジョン

ステファニー A. アーチック RI会長



このようなことを念頭に置きながら、ステファニー・アーチック会長のメッセージについてお話させていただきます。先ほどビデオもご覧いただきました。

ご承知のように、掲げられたテーマは「ロータリーのマジック」です。

このテーマについて、アーチック会長はインタビュー記事の中で、次のように語っていらっしゃいます。

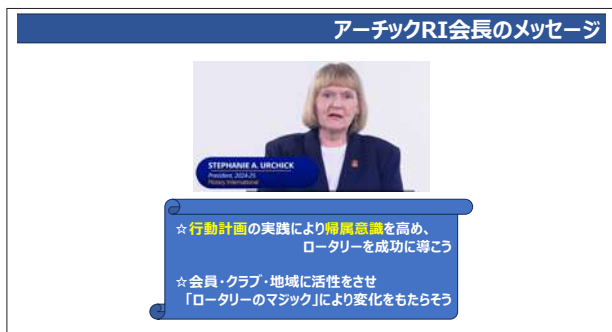
＊「変わりゆく世界の中で、クラブが立ち止まっている余裕はありません。私たちが取り入れる変化は、より大きなビジョンに向けて支えられるような戦略的に一貫したものになる必要があります。」

つまり、皆様のクラブはしっかりと積極的に活動していらっしゃるのでしょうか。国際ロータリーが提示しているビジョン声明、あるいはロータリーの目的の実現に向けて、皆様も行動計画を用意し、そのビジョンに向けてクラブ内で効果的な変化を生み出すことを目指し、行動計画にチャレンジしてください、ということをお話されています。

＊「魔法の杖を振って呪文を唱えるだけでは世界は変わりません。」

皆様次第であり、プロジェクトを終えるたびに、寄付をするたびに、新会員を迎えるたびに、変化が生じるたびに、皆様はそこにマジック、魔法を作り出して生み出しているのだ、ということをお話されます。

アーチックRI会長のメッセージ



さらにメッセージの中では、大きく二つの部分が

説明されています。

1. この計画の実践により、帰属意識を高め、ロータリーを成功に導こう。
2. 会員、クラブと地域の活動、地域を活性化させ、ロータリーのマジックにより変化をもたらそう。

地域社会が持続されることを積極的に、肯定的に変えていながら、その中心にロータリーがその役割を担っていかうという点を示しています。

ロータリーのビジョン声明と行動計画優先項目

ビジョン声明
私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指します。

より大きなインパクトをもたらす 参加者の積極的なかかわりを促す

参加者の基盤を広げる 適応力を高める

その目指すべきビジョンは、以下の通りです。

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指します。」

このビジョンを実行するための計画、「行動計画(Action plan)」が、四つの項目として整理されています。

1. より大きなインパクトをもたらす。
2. 参加者の基盤を広げる。
3. 参加者の積極的な関わりを促す。
4. 適応力を高める。

4. DEI(多様性、公平さ、インクルージョン)について

帰属意識を高めよう



ジェニファー・ジョーンズ会長年度、特にDEIについて強いイニシアティブが示されました。

私たちがロータリークラブに会員として所属し、自分自身がクラブに対してどのような思いを持ったときに、「クラブに入って良かった」と思えるのか、というアンケートがあります。その結果を整理しますと、以下のようになります。

＊自分自身がクラブに対して、しっかりとした信頼感を持っている。

- * 自分自身がその一員として迎えられ、活動に参加することによって満足や楽しみを受けられる。
- * 自分自身の生き方の中に、ロータリーの考え方や哲学といったものが、何らかのインスピレーションや学びを与えてくれる。

これらのことが、「ロータリーに入って良かった」と考える前提になります。

ジェニファー・ジョーンズ会長のもとで副会長を務められたValarie K.Waferさんは、DEIの説明を以下のようにされています。

Diversity is a fact.

Equity is a choice.

Inclusion is an action.

- * 「ダイバーシティ(多様性)」は、そこにある事実をどのように自分が受け入れるか。
- * 「エクイティ(公平さ)」は、自分でどのように行動を選択しているか。
- * 「インクルージョン」は、それを実現するためにどう行動するか。

この三つがなされたときに、帰属意識(Belonging)、「自分はこのロータリーの社会の一員である」「この価値観を強く感じることができる」という状態が生まれると整理されています。組織に関与し、居場所がある状態、これがロータリーにおけるDEIなのかもしれません。

2022COL

Factの確認

RI細則4.070. 会員の多様性

各クラブとローターアクトクラブは、多様性、公平さ、インクルージョンを推進するような均衡のとれた会員構成を構築するよう努めるものとする。いかなるクラブも、RIに加盟したかに関係なく、いかなる方法においても、ジェンダー、人種、皮膚の色、信条、国籍、または性的指向により入会を制約すること、もしくは、RI定款または細則により明白に認められていない入会の条件を課することはできない。本筋の規定に反する会員資格のいかなる規定または条件も無効であり、効力はもたない。

ロータリーの環境の中では、2022年の規定審議会の中で、ロータリー細則の「会員の多様性」という項目に「公平さ」と「インクルージョン」という言葉が加わり、ロータリーの基本的な価値観にDEIが活性化されることとなりました。

5. 帰属感と奉仕活動の量

クラブ基盤強化に向けた挑戦

Choice

帰属感	奉仕活動	奉仕活動	
		消極的	積極的
高	高	居心地のよいクラブ 活動は例会主体 仲間意識の結束 地域実情には関心薄	次代に続く活性クラブ 切磋琢磨 自己研鑽 充実した例会と奉仕活動 地域実情を反映
低	低	限界クラブ 余計なこと・言わない 新しいこと・やれない 前例踏襲	体面維持型クラブ ヒエラルキー・コントロール 義務感 付度

新会員の願い



「選択(Choice)」とは何かについて、ロータリー会員の帰属感を縦軸に、奉仕活動の量を横軸にとって整理しますと、以下の四つのクラブの類型に分類できます。

	奉仕活動の量:消極的	奉仕活動の量:積極的
帰属感:大	居心地の良いクラブ	理想的なクラブ
帰属感:小	限界クラブ	ヒエラルキー型クラブ

クラブの類型

1. 理想的なクラブ

○しっかりと奉仕活動を行い、その結果として会員の帰属感が高い人たちの集まりです。自己研鑽が充実した例会と奉仕活動が行われ、地域の実情を反映した様々な活動が行われています。

2. 居心地の良いクラブ

○奉仕活動はさほど積極的ではないものの、一員としての帰属感が高いメンバーで構成されているクラブです。ロータリークラブの居心地の良さとは、単に現状維持を意味するものではありません。新会員の様々な機会や願いを受け止めながら、変化していくことが必要なのです。

3. ヒエラルキー型クラブ

○帰属感は低いけれども、積極的な奉仕活動が行われているクラブでございます。ここでは、リーダーによる統制が見られ、「いいから言うことを聞け」といった対応がなされることがあるかもしれません。

4. 限界クラブ

○帰属感も低く、奉仕活動もほとんど行われていないクラブでございます。「余計なことは言わない、新しいことはやらない」という前例踏襲の運営が行われており、帰属感を生み出すことはできません。

ロータリークラブの居心地の良さというのは、単に現状維持を意味するものではありません。新会員の様々な機会や願いを受け止めながら、変化していくということが必要なのです。

6. 国際ロータリーの決定と会員の期待

ロータリーの変化

Action Plan の設定

国際ロータリー理事会決定事項(2023年10月)
2024-25年度からおこる変化

- ☆会長年度テーマとロゴ作成の廃止 (2025-26)
- ☆新しい会長イニシアチブの開始を廃止
- ☆クラブ/地区/ゾーンレベルの3年間の段階的なターゲットと3年間の段階的な計画を設定

3-Year Targets & Plans

「行動(Action)」とは何でしょうか。国際ロータリーの理事会は、今後、会長年度テーマとロゴ、新たな会長イニシアチブの開始を廃止し、クラブ、地区、ゾーンレベルの「3年間の段階的なターゲットと、3年間の段階的な計画」を策定し、実行していくという決定をしております。

国際ロータリーが様々な変化を認識する際に、ロータリアンからのアンケート調査があります。その結果から、ロータリー入会の動機と、入会後にクラブに期待することが見えてまいります。

入会の動機

WHY DO PEOPLE JOIN ROTARY ?

Local community service
地域社会奉仕活動

Friendship and fellowship
友情と親睦

Service beyond the local Community
地域社会を超えた奉仕

Professional and leadership development opportunity
プロフェッショナルおよびリーダーシップ開発の機会

国際ロータリーのアンケートによると、以下の動機が挙げられています。

1. 地域社会に対し、奉仕活動をしたい。
2. 友情と親睦の輪を広げたい。
3. 地域を超えた世界的な奉仕活動にチャレンジしたい。
4. 自身のプロフェッショナルやリーダーシップの開発にチャレンジしたい。

クラブに期待すること

THE CLUB EXPERIENCE

1 例会の楽しみ

会員が楽しいと感じ、自分が受け入れられ、その一員であると感じるとき

2 クラブ指導者への信頼

会員が、自分にはクラブに対する意見があり、クラブの指導者は自分の考えを受け入れてくれていると感じ、クラブのために適切な決定を下してくれる指導者を信頼している場合

3 自己成長の機会

会員が、クラブやロータリーが自分のスキルを伸ばし、磨くための方法を提供してくれていると実感できるとき

4 つながり

ロータリーを通じ、会員が貴重な人間関係を築いたと感じるとき

5 意義ある奉仕

会員が、自分たちのクラブが行う奉仕が世界や地域社会に変化をもたらしていると感じるとき

入会した人たちがクラブでどのようなことを期待しているかについてもアンケートが取られています。

1. 何よりも例会が楽しくあること。
3年未満の退会者の方々があったのは、この例会が楽しくない、例会出席が義務だと感じていることが原因の一つであり、義務感のみで長続きするわけがございません。
2. クラブのメンバーを信頼できること。
一方的なコミュニケーションではなく、双方向のコミュニケーションが取れるクラブであることが重要です。
3. 自己成長の機会を与えて欲しい。
異業種交流や様々な奉仕活動に参加することによって、自分自身が新たな価値観に接触し、知ることができる機会を求めています。
4. つながり、縁を広くつなぎ、成長できるクラブであって欲しい。
5. 意義ある奉仕を行っているクラブの一員になるという実感が欲しい。

先ほど、「あなたのクラブを代表するプロジェクトは何ですか」という問いかけをさせていただきましたが、これらの期待に応えることが求められています。

7. 不易と流行

アーチックRI会長のメッセージ

STEPHANIE A. URCHICK
President 2023-24
Public Relations

☆行動計画の実践により帰属意識を高め、ロータリーを成功に導こう

☆会員・クラブ・地域を活性させ「ロータリーのマジック」により変化をもたらそう

今のような「会員クラブの地域を活性させ、ロータリーのマジックによる変化をもたらそう」というメッセージがあります。日本にロータリーができて100余年、私たちが確認すべき不易と流行があると考えます。

ロータリーの不易流行

ロータリーが誕生して119年、日本に設立されて104年

目 指 す 姿	ビ ジ ョ ン 声 明	元 気 な ク ラ ブ
実 現 に 向 け た 指 針	行 動 計 画 R財団7つの重点分野	変 化 認 識 と 対 応
実 現 の た め の 基 盤	日 々 の 研 鑽 奉 仕 活 動 (五 大 奉 仕)	持 続 す る ロ ー タ リ ー
共 有 さ れ 続 け る 価 値 観	ロータリーの目的 R財団目的 四つのテスト 中核的価値観	奉 仕 の 理 念

*不易の部分：私たちが共有すべき価値観、つま

り「奉仕の理念とは何か」ということを共有するような環境でございます。

※ **目指す姿**：活性化した地域社会の中で、必要とされる持続的な存在であり続けるためのクラブの作り方、作業を実現していくことです。

※ **方法論**：社会認識と社会変化への対応を展開していくことです。行動計画はそのツールとして、五大奉仕の在り方についても様々な社会の必要に応じた対応をしていくことが求められています。

8. ポリオデーと地区の現況

10月24日は“世界ポリオデー”

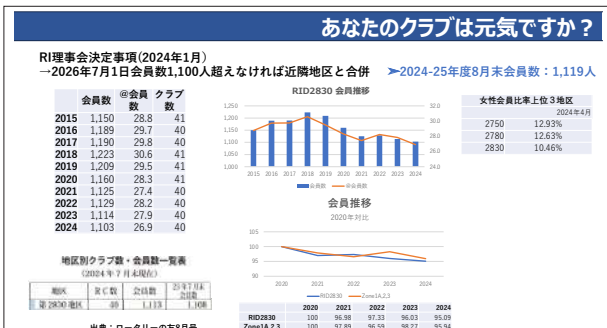
世界ポリオデー 10月24日

Rotary

ポリオ根絶に向けて世界が一つに

世界ポリオデーは、ロータリー会員、公衆衛生分野のリーダー、ポリオのない世界を測るすべての人びとが力を合わせ、ポリオ根絶活動の進展を祝うとともに、ポリオを永久になくすために行動を起こす機会です。

10月24日は「世界ポリオデー」です。ポリオを根絶しようという活動は、世界中のロータリアン、ロータリークラブがチャレンジしており、この2830地区でも様々な計画がおりになると思います。意欲を持って取り組んでいただければと思います。



最後に、「あなたのクラブは元気ですか」という問いかけになります。

当地区は、2026年7月時点で1,100名の会員を確保しておかないと、近隣地区との合併という理事会の決議がなされております。順調に今会員を増やしておられますが、年度末の退会者をいかに防ぐかということに、工夫と努力をなさることに期待を申し上げます。

一点、素晴らしい数字があることをお感じいただきたいと思います。それは女性会員比率でございます。日本の34地区中、2750地区(東京)が12.93%(今年の4月現在)でございますが、2830地区は、神奈川県西部に次いで日本の3番目に女性の正会員の多い地区になっており、10.46%となっております。開かれた風土、文化をしっかりと広げていただくことをさらにできれば、より強固な組織ができるので

はないかと思えます。

入会動機は優先項目と一致？

より大きなインパクトをもたらす	地域社会を超えた奉仕
参加者の基盤を広げる	友情と親睦
参加者の積極的なかわりを促す	地域社会奉仕活動
適応力を高める	プロフェッショナルおよびリーダーシップ開発の機会

ロータリアンへの質問

☆なぜロータリークラブに入会しましたか
4 つながり ロータリーを通じ、会員が貴重な人間関係を築いたと感じるとき

☆ロータリークラブの会員とはどのような人達ですか
3 自己成長の機会 会員が、クラブやロータリーが自分のスキルを伸ばし、磨くための方法を提供してくれていると感じるとき

☆ロータリークラブはどのような事を行っているのですか
1 例会の楽しみ 会員が楽しいと感じ、自分が受け入れられ、その一員であると感じるとき

☆なぜロータリークラブ会員であり続けているのですか
2 クラブ指導者への信頼 会員が、自分にはクラブに対する意見があり、クラブの指導者は自分の考えを受け入れてくれていると感じ、クラブのために適切な決定を下してくれる指導者を信頼している場合

☆あなたのクラブを代表する活動は何ですか？
5 意義ある奉仕 会員が、自分たちのクラブが行う奉仕が世界や地域社会に変化をもたらしていると感じるとき

行動計画と、入会のための理由、そして先ほどの五つの質問の答えは、クラブ例会でどのような楽しみや機能を期待するかということに一致いたします。私たちがこれから大事にしていかなければいけないのは、クラブ例会をいかに充実したものにしていくか、ここが肝であると確認いただけるのではないかと思います。

“Rotary”を学ぶ

元氣なクラブづくり(行動計画)推進 + ポリオ根絶

ロータリークラブ 世界：36,570クラブ (2024年6月) 国内：2,195クラブ (2024年6月)

ロータリーアクティブクラブ 世界：8,814クラブ (2024年6月) 国内：116,128人 (2024年6月)

国際ロータリー(RI) ロータリー財団(TRF)

ロータリーの目的 四つのテスト 奉仕 中核的価値観 ビジョン声明 行動計画

ビジョン達成のための行動計画(クラブの挑戦)

2024 2025 2026 2027

☆より大きなインパクトをもたらす	☆参加者の基盤を広げる	☆参加者の積極的なかわりを促す	☆適応力を高める
・奉仕活動を実施しましょう。	・3年後のクラブの姿を想像してみましょう。	・持続可能な活動を積み重ねましょう。	・クラブの柔軟性と継続性を考えましょう。
5 意義ある奉仕 会員が、自分たちのクラブが行う奉仕が世界や地域社会に変化をもたらしていると感じるとき	1 例会の楽しみ 会員が楽しいと感じ、自分が受け入れられ、その一員であると感じるとき	3 自己成長の機会 会員が、クラブやロータリーが自分のスキルを伸ばし、磨くための方法を提供してくれていると感じるとき	2 クラブ指導者への信頼 会員が、自分にはクラブに対する意見があり、クラブの指導者は自分の考えを受け入れてくれていると感じ、クラブのために適切な決定を下してくれる指導者を信頼している場合

9. 結びに

花田ガバナーが示される「個性輝くロータリー」というスローガンは、それぞれのクラブがそれぞれ

花田年度の足跡をしっかりと残そう！



☆地区内クラブリーダーの皆様がリーダーシップを発揮され

☆それぞれがのクラブが「目指す姿」を描き活動

☆結果として「個性輝くロータリー」に变身！！

「チーム・花田」年度の一体感を醸成し、
クラブと地区の活性を実現いたしましょう！！

の地域社会の中で、その環境を受け止め、文化背景の中で、そのようなクラブに変わっていくこと、育っていくことが、皆様にとっても、地域社会にとっても、そして日本のロータリーにとっても、世界のロータリーにとっても、いかに重要であるかという、大変素晴らしいスローガンであると思います。

「一生懸命やっても一年、ダラダラやっても一年、どうせ同じ一年なら」と申しますが、皆様もぜひこの一年をしっかりと充実したものとしてお送りになりながら、チーム花田年度の一体感をこの地区大会を契機に醸成し、クラブ、地区が活性化することを心からお祈り申し上げます。

最後に、豊田佐吉翁の「障子をあけてみよ 外は広いぞ」という言葉をご紹介します。

障子を開けてみよ 外は広いぞ



こたつにあたって、手の届く範囲だけのことをしていくのであれば、心地よく快適で新たなストレスも生まれません。しかし、こたつから出て寒い思いをしながら障子を開け、その外には何があるんだろう、どんな景色が見えるんだろう、そこに障子を開けることによってどんな変化が起こるんだろう、ということにぜひチャレンジしようではありませんか。

慣れ親しんだ方法やルールは、困った時の拠り所ではありますが、今社会が大きく変化している中であって、私たちがその社会に順応し、変化を認識しながら対応していくためには、ちょっと障子を開け、外を眺めてみることも必要なのではないのでしょうか。

今日の地区大会がそのような機会になることを願いまして、国際ロータリー現況報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



地区現況報告

第2830地区ガバナー

花 田 勝 彦

五所川原RC



地区現況報告

ガバナー 花 田 勝 彦

第2830地区の現況

クラブ数 40 (衛星クラブ3、ローターアクトクラブ6)

会員数 1,123 (名誉会員21、ローターアクター26)

グループ数 6 (東1、東2、西1、西2、中、南)

第2830地区 緊急事態宣言！

2024年1月12日～13日のRI理事会において、当2830地区を含む世界6つの地区において、「隣接地区と合併することに同意する。」という決議がなされた

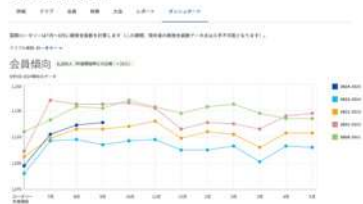
この決議は、2026年7月1日までに会員数が1100名に達しなかった場合、2028年7月1日から有効となる

このような決議が なされた背景

2021年以降、7月1日時点における会員数が3年連続1,100名を割り込んでいたこと

D2830 過去5年 の会員数 の推移

第2830地区



過去5年間の会員数 推移から分かること

- 会員数1,100名を切っているのはほぼ7月1日時点だけである
- 12月末、3月末にも退会者は増えるが、ロータリー年度の最終日である6月30日の会員数減少が最も大きい

考えられる対策

- 6月30日の退会者を見込んで、会員数をセーフティーゾーン（1,130名程度）を維持するようにする
- 7月1日時点での会員数を減少させないようにする。
例えば、転勤による退会者と新任者の入会にタイムラグが生じないようにするなど

国際ロータリーから 地区が求められていること

- 2024.3.31 地区成長戦略
- 2024.9.30 地区成長活動報告
- 2024.3.31 地区成長戦略II
- 2025.9.30 地区成長活動報告II
- 2026.1.31 合併する地区を決める
- 2026.7.1 会員数1,100名の判断基準時

会員増強・退会防止の方向性

- ① クラブでの例会・奉仕活動を充実させること
- ② 正会員を増やすために多様な会員制度を創設
- ③ 会費の負担を実質的に公平にする

Rotary 2024-25年度 地区大会



新たな会員制度を始めるための手続きについて

細則を改正するのが本則。

しかし、パイロット的に実施するためにはクラブの理事会決議を経れば足りるのではないかと。半年、一年実施して見てから問題点を織り込んだ細則改正を実施すればいい。その場合、地区でも細則の改正を助言したり、作成のお手伝いをする。

Rotary 2024-25年度 地区大会



第2540地区の状況

2024年4月の理事会で、2027年1月1日までに、地区の会員数が1,100名に達しない場合には隣接する地区と合併する旨の決議がなされている。

佐藤和志ガバナーとも協議し、互いに会員数1,200名を目指して会員増強に取り組むことを確認している。

Rotary 2024-25年度 地区大会



ご清聴ありがとうございました。

Rotary 2024-25年度 地区大会



花田ガバナーは、上記のスライドを示して、当地区の会員数が2021年以降、1100名を割り込んだ結果として、2024年1月のRI理事会において、2026年7月1日の会員数が1100名に達しなかった場合、隣接地区と合併することが決議されたことを報告しました。そして、地区としては、1100名を超える会員数とするために、地区一丸となって取り組んで行きたいと述べました。

そのための方策の一つとして、①クラブでの例会・奉仕活動の充実、②正会員をふやすために多様な会員制度を創設、③会費の負担を実質的に公平にすることを挙げ、特に②について、多様な正会員の種別を認める細則の改正案を地区において検討していることを挙げました。

また、第2540地区(秋田県)も、2024年4月の理事会で同様の決議がなされていることも報告されました。

最後に、会場にいらした第2540地区の佐藤和志ガバナーとともに、両地区において、会員増強に取り組み、1200名を目指して行くことを確認いたしました。



グローバル補助金事業に対する 感謝のことば

RI第3330地区ガバナー代理・パストガバナー

Quanchai Laohaviraphap



おはようございます。

まず最初に、自己紹介をいたします。私はPDG.クアンチャイ・ラオハヴィラパブです。

2014-2015年度に第3330地区のガバナー、2016年度にRI会長代理、そして2020年-2023年度に規定審議委員を務めました。

貴地区のPDG.工藤武重とは同期のガバナーであり、規定審議委員会も同じ年にご一緒しています。

国際ロータリー第3330地区Jakchai Visutthakulガバナーをはじめ第3330地区のロータリアンを代表いたしまして、本日の地区大会開催にあたり、花田勝彦ガバナーと第2830地区のロータリアンの皆様に心よりお祝いを申し上げます。

Jakchaiガバナーは第2830地区の皆様にお会いできることを楽しみにしておりましたが、もともと参加予定であった第2500地区の地区大会の日程と被ってしまい、残念ながら本日参加することが叶いませんでした。皆様に心よりお詫びを申し上げます。本日は私が、彼の代理としてご挨拶させていただきます。

尊敬する第2830地区と私たち第3330地区の関係は、深い友情へと発展しております。私たちは現在に至るまで、学校での「水の衛生設備と衛生」、「疾病予防と治療」を含む多くの奉仕プロジェクトを通して、共にグローバル補助金事業に参加する素晴らしい機会を得ています。貴地区のDDFによる支援の総額は125,000ドルをこえています。これまでのご貢献に感謝するとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第3330地区は、ガバナーのチームの下で、2024~2027年度に国際奉仕委員長を務める私、PDG.クアンチャイと、地区ロータリー財団委員長を務めるPP.パッチャラを中心に、両地区の親交を深めるため、これからも貴地区との協力に努めてまいります。

最後になりましたが、地区大会が素晴らしいものとなりますようお祈り申し上げますとともに、両地区の親睦が永遠に続くことを願っております。

ロータリーの仲間として (Yours in Rotary,)

第3330地区DG. Jakchai Visutthakul代理

PDG.クアンチャイ・ラオハヴィラパブ (2014-2015年度地区ガバナー)



各種表彰

(2023-24年度)

(順不同敬称略)

RI 表彰



ロータリー賞

南部 RC

八戸南 RC

弘前 RC

青森 RC

弘前西 RC

黒石 RC



地区表彰



奉仕活動優秀クラブ

ガバナー補佐推薦

むつRC

《推薦理由》

むつRCは、重度障害を持つ子どもを対象として考案された「ユニバーサル野球」をむつ市で開催したいという重症心身障がい児(者)の親の熱い思いに共鳴し、地区補助金の活用をはじめ必要資金を集め、多くのロータリアンと高校野球部、小学校野球クラブ他多くの関係団体の協力(※)によって青森県初の「ユニバーサル野球INむつ」を共催し(主催者は一般社団法人りあん)、年齢、性別、

障がいのあるなしに関係なく応援しあう喜びに、たくさんの感動を呼び起こしました。

障がいのある子どもも野球部の高校生も同じバッターボックスでのバッティングで、すべてのバッターをすべての人が見守り応援し、100人を超える会場の心はひとつになりました。

※むつRC、むつ中央RC、むつ大畑ロータリー衛星C、むつ工業高校軟式野球部、第二田名部小学校まきのこジャイアンツ、輪いどの会(重症心身障がい児親の会)の混成野球チーム4チーム選手合計53名。支援企業・団体81・個人14名。応援演奏：下北 Jr. オーケストラ、MUU FREE LIFE「りあん」さんとむつRCが実行委員会を共同運営し、当初予定した資金を大きく上回る支援金を集めることができて、むつ市の共催も得て、「りあん」の皆様も当初思い描いていた以上の多くの感動を生み出す大会となり、青森県初として数々のメディアでも大きく取り上げられるとともに、多くの方から感動の声が届けられました。

一般社団法人りあん(重度障がいの子を持つ親の団体)から「ロータリークラブの皆さんの力で子どもたちに野球をする喜びを、笑顔を！」と呼びかけられたことにはじまり、終わってからの「りあん」の皆様の感動の涙は、ロータリークラブとしても誇らしく感動的な、まさに「世界に希望を生み出そう」を表したものでありました。そして、年齢、性別、障がいのあるなしに関係なく同じスポーツを楽しむ「ユニバーサル野球」によって、正しく DEI の大切さを全員が一瞬のうちに理解しあうこととなりました。「りあん」中西理事長は「みんなが同じ気持ちで一体となることができた。日常でも壁を取り払い、共生できる社会につながるきっかけになればと思う」(東奥日報)と話してくれました。

同 RC は、今年度例年通りの社会奉仕活動に加えてこの活動の他、ポリオ出前授業(むつ工業高校)、ポリオ募金活動、能登半島地震支援募金活動も行った。

以上のことから奉仕活動優秀クラブ表彰に相応しいものと申請致します。

野辺地RC

《推薦理由》

野辺地ロータリークラブを推薦した理由は、長年にわたり米山奨学生をクラブ全員で補佐してきたこと。今年度は、地区の方針に従いポリオに関して、野辺地西高校への出前講演や海岸清掃活動、愛宕公園清掃活動、他組織と共同のはまなすライン歩道清掃活動の時、ポリオTシャツ着用して、啓蒙活動を行ってきた。25年間『読書感想文コンクール』を開催してきた。

以上を奉仕活動優秀クラブ推薦とした。

青森RC

《推薦理由》

市内の高校でクラブメンバーによる出前授業を行い、学生に仕事に対する意識向上に貢献した。

八戸西RC

《推薦理由》

八戸西RCは、「八戸三社大祭お通り」当日早朝八戸市中心街にてゴミ拾い清掃活動を行った。前夜祭で捨てられた大量のゴミが翌日にはない街を観光客は勿論 神社や山車関係者にもアピール出来たことは2830地区全体に通じる活動であり、メディアにも取り上げられ公共イメー

ジアップに大いに貢献した。



👑 奉仕活動優秀ロータリアン ガバナー補佐推薦

野坂 幸子 野辺地RC

《推薦理由》

野坂幸子君を推薦した理由は、第1長年にわたり地区米山委員長を務め数多くの米山奨学生を真摯に面倒みてきたこと。クラブ内において、25年にわたる『読書感想文コンクール』の委員長や審査員のリーダーを務めてきたこと。財団と米山奨学会への寄付に対して大変理解があったことなどがあげられる。
以上をもって推薦する。

工藤 昭義 板柳RC

《推薦理由》

板柳RCでは、他クラブとの合同例会を積極的に開催しています。工藤会長は会長と幹事を3期ずつ務め、近隣クラブとの合同例会を掲げ持ち前の行動力を持って、その言葉通り2023年9月及び24年4月に鶴田RCと、同じく2024年4月には、平賀・尾上RCとの合同例会を開催。鶴田RCとは、2012年以来12年ぶりとなった。コロナの影響を受けて、例会場が使えないなど、活動が制限されている中で親睦を深める事で、明日への元気が湧いたと思います。会員増強にも積極的に関わり2017年、2022年、2024年にも会員を推薦している。入会から35年7ヶ月、現在もクラブの為に活躍しています。



紺野 広 八戸RC

《推薦理由》

八戸ロータリークラブ会長としてリーダーシップを発揮し会員増強にも努めた。また2830地区青少年指導者養成プログラム「RYLA」では、八戸赤十字病院院長の経験を活かし災害派遣やコロナ禍の対応について講演いただいた。クラブの活性化と青少年の指導者育成に取り組まれた事はロータリアンの模範であり、ロータリーのイメージアップに大いに貢献した。

小田 優吾 六ヶ所RC

《推薦理由》

当クラブの初の試みとなる近隣の市町村の小・中学生を対象とした卓球大会を中心となって開催した。スポーツを通しての社会奉仕活動であり、子供達だけではなく親御さんやロータリアンとの交流も生まれた。大会自体がとても好評で例年での開催を検討中である。(7市町村より参加者70名)



小比類巻 雅祥 三沢RC

《推薦理由》

地区補助金を活用し、三沢市内の児童館へボッチャの道具を寄贈、子供たちにパラリンピック正式種目である「ボッチャ」の普及に努めた。

鶴賀 善宏 つがるRC

《推薦理由》

入会して28年間心身とも健康であったため例会に無欠席で、その間、青少年委員会・クラブ奉仕委員会・広報委員会に所属し、特にクラブ奉仕委員会では毎回の例会で司会進行に尽力され楽しいひと時を過ごすことができました。また、IMの時の企画立案も立派で、工夫をして責任を果たしてくれました。2008～09年度では、「ロータリーの友」地区代表委員として活躍してくれたことは特筆されることです。

小林 大真 弘前RC

《推薦理由》

インターアクトクラブの活動の一環である環境美化活動(プランターへの花の植栽活動)を支援し、植栽後のプランターを聖愛中学高等学校の生徒が利用している中央弘前駅構内に設置してもらうよう働きかけ、市民に対しインターアクトクラブの活動を知ってもらうよう尽力いただいた。

福士 悟 弘前東RC

《推薦理由》

弘前東ロータリークラブに入会し43年の長きにわたり、当クラブを下支えしていただいた。ご自身も病と闘いながら決して平坦では無い道のりを歩み続け、たゆまぬ努力を重ねてこられたことは誠に素晴らしく心から敬意を表する。これからも弘前東ロータリークラブと共に歩んでいただきたい。

長谷川 正之 弘前西RC

《推薦理由》

コロナ禍まっただ中で経済活動がままならず、なかなか会長の引き受け手のない中、2021-22年度、2022-23年度と、2年間にわたりクラブ会長の重責を果たされました。そして、引き続き今年度は幹事として尽力されました。

越田 忠和 青森RC

《推薦理由》

初めて奉仕プロジェクト委員長に就任し、次のような奉仕活動を率先して行ったことにより推薦します。

1. ポリオ根絶PR活動(ティッシュ等配布、募金活動)
2. リンゴの木に係る一連作業(シール貼り、収穫、磨き、贈呈)
3. 中学校での職業講話
4. 平和母子像等清掃活動など。

屋外での活動も多く、寒暖・天候もある中全ての活動に参加し、相手方、会員双方をサポートしてくれました。

中村 洋一 青森北東RC

《推薦理由》

ガバナーが掲げた重点的に取り組む事項に於いて、ポリオ撲滅プログラムの出前講座を青森県立青森商業高校IAC他総勢70名にて実施した他、地区補助金を活用し行った夏泊(大島)海岸の清掃、近年においての東岳登山道における標識設置事業や青森市立荻町小学校の花壇の清掃整備事業に尽力し、ロータリアンとしての見本となったため。

橘 正弘 青森モーニングRC

《推薦理由》

6年目となった当クラブ主要奉仕プロジェクトである「青森市・米国メイン州の小学生版画展」の開催に際しては継続して実行メンバーの中心となり運営に大いに貢献した。また、当クラブ創立35周年記念式典においては総務委員長として全体を統括し会員の力をまとめると共に5姉妹クラブとの連絡調整や絆深化にも存分に力を発揮した。

鶴飼 寿栄 八戸RC

《推薦理由》

8月、当クラブではロータリー財団地区補助金事業を活用し、社会福祉法人八戸市社会福祉事業団母子生活支援施設「小菊荘」の夏祭り開催の際、社会福祉法人「ユートピアの会」の施設を無償で提供並びに参画戴いた。小菊荘の皆さん、ユートピアを利用している障がい者をはじめスタッフ、ロータリアンをあわせ、総勢100名位が参加し、鶴飼会員の全面的な支援に依り事業は成功に終わった。小菊荘の母子も十二分に楽しまれ、満足されて帰路につかれた。我々ロータリアンも充実した1日を送ることが出来た。

10月、八戸で行われた第2830地区大会において、これ迄の経験を活かし、国際奉仕委員長として自ら先頭に立ち、歓迎レセプションでは、姉妹クラブである台湾基隆RCのロータリアンを十二分にもてなし、地区大会を無事に成功させる役目を果たされた。また、11月に台湾で行われた基隆RC創立70周年記念式典に際しても、事前に現地での基隆RCとの姉妹クラブ締結更新の調印式の為に調整を図り、無事に基隆RCと姉妹クラブ締結更新の調印し、国際友好の継続を図る事が出来た。

上記の諸活動に当たり、自身の職業知識、経験、スキルを駆使して取り組んできた姿勢は、奉仕の模範と言って過言ではない、評価されるべき素晴らしいものであった。

岡崎 孝文 八戸RC

《推薦理由》

7月、社会福祉法人八戸市社会福祉事業団 母子生活支援施設「小菊荘」の花壇整備の際、事前に綿密に打合せを行い、的確に指示し先頭に立って作業を行った。花壇や通路、中庭の雑草除去作業、花壇への肥料散布、花の植栽等の作業は滞りなく、楽しく実行され、終了した。ロータリアンと小菊荘の母子、職員の皆様が一体に成れ、楽しい時間を共有する事が出来た。

8月、社会福祉法人「ユートピアの会」と八戸ロータリークラブとの共催で、「ユートピア・小菊荘夏祭り」において小菊荘の寮長やユートピアの施設長と綿密に打ち合わせをし、全てに尽力した。今回の事業は初めての試みであったが、小菊荘の母子の皆さんも十分楽しんで帰られ、我々も充実した1日を送る事が出来た。

2月、八戸市内の小中学生を対象にした小倉百人一首大会「八戸市競技かるた小中学生大会」を実施した際、事前にインターアクト部担当顧問及び協賛企業の担当者として綿密に打ち合わせし、広報を行った。当日は、早朝から会場の設営に携わり、無事に大会を終了に導いた。結果、昨年度よりも参加者やボランティアが増加し、賑やかで有意義な大会となった。

上記の諸活動に当たり、自身の職業知識、経験、スキルを駆使し取り組んで来た積極的な姿勢と貢献は、職業奉仕の模範と言って過言では無い。評価されるべき素晴らしいものであった。

越後林 寛之 八戸東RC

《推薦理由》

本年度当クラブ親睦委員会委員長の役割をよく果たされました。「出席なくして親睦なし、親睦なくして奉仕なし」のクラブのスピリッツとロータリーのクラブ奉仕精神をとて理解し、家族例会3回、中でも第3000回例会を記念納涼花火家族例会として開催し盛況にやり遂げ、クリスマス家族例会も例年とは違う設えで開催出来ました。ゴルフコンペなどの会員交流も企画実施し、新会員歓迎例会、八戸市長をお招きしての親睦例会も開催と数多くの企画を実施することが出来ました。

また通常例会に置かれましても受付業務をよくされていきました。1年間沢山の事業をされましたが各事業企画に向けた委員会(9名)を年6回開催し、委員会をよくまとめられました。

本年度当クラブは諸事情につき例会場を変更しましたが越後林委員長率いる親睦委員会の功績で会長スローガンの楽しい出席を実現できたかと思います。

以上をもって推薦理由とさせていただきます。

👑 会員増強優秀クラブ

週報の発行や地域社会で広報活動の優秀なクラブ

第1位	七戸 RC	37.5%増
第2位	八戸南 RC	25.8%増
第3位	鯉ヶ沢 RC	14.3%増
第4位	弘前 RC	12.5%増
第5位	青森 RC	純増5名以上
第6位	八戸 RC	純増5名以上



👑 広報活動優秀クラブ

週報の発行や地域社会で広報活動の優秀なクラブ

五所川原 RC	板柳 RC
青森 RC	八戸西 RC



👑 ロータリー財団寄付成績優秀クラブ

直近5年間の寄付平均額の増加したクラブ(但し、地区目標を上まわっている)

- 第1位 五所川原 RC
第2位 南部 RC



👑 出席成績優秀クラブ

プラチナ賞 (例会月4回、95%以上)

八戸東 RC	100%
三戸 RC	96.33%

ゴールド賞 (例会月3回以下、95%以上)

弘前西 RC	100%
--------	------



ロータリー財団寄付成績優秀ロータリアン
新ポールハリスフェロー

渡邊 英司 むつRC	寺田 誠 青森北東RC
中村 僚 東北RC	村館 珠樹 八戸RC
上久保聖一 十和田RC	深澤 隆 八戸RC
中渡 俊明 十和田RC	坂本 興樹 八戸東RC
照井 伸良 十和田東RC	大野 誠 三戸RC
蛭沢 保行 三沢東RC	村越 啓一 五戸RC
中村 栄吉 十和田八甲RC	夏堀 剛充 南部RC
櫻田百合子 十和田八甲RC	片野 潤 八戸北RC
佐藤 昭義 五所川原RC	小野 晶子 八戸北RC
三浦 基 青森RC	小澤 一雅 八戸北RC
桑田 秀美 青森RC	佐々木悦郎 八戸北RC
三枝慎太郎 青森RC	工藤 亮夫 八戸中央RC
桃野 敬 青森RC	中村 好伸 八戸中央RC
桜井 清 青森RC	畠山 徳陽 八戸西RC



ロータリー財団寄付成績優秀ロータリアン
新メジャードナー

白山 春男 十和田東RC 花田 勝彦 五所川原RC



米山記念奨学会寄付成績優秀クラブ

近5年間の寄付平均額の増加したクラブ(但し、地区目標を上まわっている)

第1位 三戸RC

米山記念奨学会寄付成績優秀ロータリアン
新米山功労者

溝口奈美子 十和田東RC	田中 正子 青森RC
木村 康仁 五所川原RC	松山 栄一 青森RC
葛西 徹 弘前RC	齊藤 幸悦 青森北東RC
松下千賀子 弘前東RC	蝦名 正治 青森北東RC
澁谷 明広 弘前アップルRC	最上 伸子 青森モーニングRC
宇野 純子 弘前アップルRC	村館 珠樹 八戸RC
宮本 達子 青森RC	山本 仁 八戸RC
山口 聡 青森RC	杉本 紀之 八戸東RC
林 均 青森RC	坂本 勝克 三戸RC
佐藤 一尚 青森RC	



国際平和資金寄付優秀クラブ

第1位 東北RC

第2位 三戸RC

第3位 十和田RC

第4位 おいらせRC

第5位 三沢RC



👑 長寿ロータリアン 満80歳 (2024年6月末)

金濱 瀧男 六ヶ所RC 木村 英二 五所川原中央RC
木滝 三彦 三沢東RC 山田 慶次 八戸RC

👑 長寿ロータリアン 満90歳 (2024年6月末)

小館多哥志 青森RC

👑 ガバナー特別表彰

八 戸 南 RC

《推薦理由》

衛星クラブのスポンサークラブとして、八戸南さくらエイトロータリー衛星クラブの設立に多大なるご協力をいただきました。
その功績に深く敬意を表します。



ロータくん 八戸RC

《推薦理由》

この第2830地区のイメージキャラクターとして、数多くのイベントや奉仕活動参加され地域の発展と奉仕の精神を体現していただきました。

地域の方々にもロータリークラブという存在をより身近に感じていただけていると思います。そのことにより、ロータリーの精神を地域の方々に、より広がっていくことを期待しています。

ロータくんの活躍は私達の誇りであり、未来への希望です。今後もその輝かしい功績を胸に、更なるご活躍をお祈り申し上げます。



公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会 表 彰

👑 米山記念奨学会寄付認証クラブ

1千万円達成クラブ

十和田東 RC



パネルディスカッション

パネリスト



元RI理事・パストガバナー
黒田 正宏 氏(八戸南RC)

略歴

1938年生まれ。
職業：柏崎メディカルクリニック医師
学歴：弘前大学医学部卒業
弘前大学医学部大学院終了
所属：国際ロータリー第2830地区
八戸南ロータリークラブ
職業分類：心療内科医

ロータリー歴

1978年 八戸南ロータリークラブ入会
1998-99年、2001-02年 国際ロータリー第2830地区ガバナー
2009-11年 国際ロータリー理事
2011-12年 国際ロータリー職業奉仕推進委員会委員長

RI規定審議会地区代表議員、RI会員組織コーディネーター、RI日本支部長、RI研修リーダー、R財団地域コーディネーター、R日韓親善会議連絡幹事、地区大会RI会長代理(15)、RI会長ノミニー指名委員会委員(5)、RI運営審査委員会委員(2012-18)、国際ポリオプラス委員会委員(2014)、公益財団法人ロータリー日本財団理事(副理事長)(2013-23)等

褒章

アーチC.クラフ・ソサエティ会員、米山功労者メジャードナー

テーマ 「個性輝くロータリー」

～これからの第2830地区が
目指すべきロータリーとは～



パストガバナー
関場 慶博 氏(弘前アップルRC)

略歴

1950年生まれ。
職業：医療法人栄現会理事長
せきばクリニック院長
学歴：1976年福島県立医科大学卒業
所属：国際ロータリー第2830地区
弘前アップルロータリークラブ
職業分類：小児科医

ロータリー歴

1988年 弘前ロータリークラブ入会
2000-01年 国際ロータリー第2830地区ガバナー
RI青少年交換委員会副委員長(2008-09)、RI会員組織地域コーディネーター(2007-08)、RI研修リーダー(2006-07)、地区大会RI会長代理(7)、国際大会・国際協議会・規定審議会SAA多数、ロータリー米山記念奨学会選考委員会副委員長(2011-13)等

褒章

ロータリー財団メジャードナー(2)、ベネファクター、遺贈友の会会員、ポール・ハリス・ソサイエティ会員、米山功労者メジャードナー
ポリオの無い世界のための国際奉仕賞受賞(2006年)
超我の奉仕賞受賞(2016年)

パネリスト

ガバナー
花田 勝彦
(五所川原RC)

アドバイザー

RI会長代理
高野 孫左エ門 氏
(甲府RC)

モデレーター

元RIラーニングファシリテーター
山崎 淳一 氏
(五所川原RC)

パネルディスカッション

「個性輝くロータリー」：未来への指針

このパネルディスカッションは、花田ガバナーが提唱する「個性輝くロータリー」というテーマのもと、第2830地区が目指すべき未来のロータリー像を探るために開催されました。当地区の歴史を築いてきた黒田元RI理事と関場パストガバナーを迎え、彼らの豊富な経験から今後のロータリーが進むべき道を考える貴重な機会となりました。

《地区の歴史と現状認識》

コーディネーターの山崎淳一パストガバナーから、まず第2830地区の歴史が振り返られました。1953年に日本で100番目のクラブとして青森ロータリークラブが創立されて以来、当地区は多くのリーダーを輩出し、発展を遂げてきました。しかし、近



年は会員数が減少し、2026年7月1日に会員数が1100名に満たない場合には、隣接地区との合併するようRI理事会で決議されています。これは、クラブの魅力が低下していることの表れであり、地区全体でより魅力あるクラブづくりに取り組むことが喫緊の課題であることが強調されました。

《これまでのロータリー人生で大切にしてきたこと》

議論は、黒田元RI理事と関場パストガバナーの「ロータリー人生において何を大切にしてきたか？」という問いから始まりました。

黒田元RI理事：友情と寛容の精神

黒田元RI理事は、ロータリーで最も大切にできたこととして「ロータリーの思いやりの心」と「会員との友情」を挙げました。高校でのインターアクトクラブ創設をきっかけに国際奉仕の道に進み、韓国のロータリアンとの深い友情を育みました。東日本大震災の際に、その友情が復興支援へと繋がったエピソードは、人と人との繋がりが奉仕の根幹であることを示しています。



また、『ロータリーリーダーシップ研究会(RLI)』を日本に導入した経験も語られました。アメリカでのセミナー見学を通じて、自由な討論と参加者の自主性を尊重するスタイルに感銘を受け、日本での導入に尽力しました。この経験から、ロータリーは笑顔でリラックスして語り合える場であるべきだと感じたといいます。

RI理事としての経験では、レイ・クリンギンスミスRI会長エレクトが「前例踏襲しない」と宣言し、職業奉仕委員会の休会を提案した際、日本の代表として反対意見を述べたエピソードを紹介しました。強い個性を持つリーダーに対しても、信念を貫くことの重要性を示しました。さらに、マーク・マローニー元RI会長からは、会議だけでなく、美術鑑賞などを通じて世界の文化に触れることの重要性を学び、ロータリーが人生を豊かにする場であることを再認識したと述べました。

これらの経験から、黒田氏は「ロータリーの思いやり」は、単なる善意ではなく、寛容の精神や四つのテストの実践から育まれるものであることを強調しました。

関場パストガバナー：出会いと感動の循環

関場パストガバナーは、36年にわたるロータリー活動を続けてこれたのは「出会いと感動」があったからだと言いました。入会のきっかけは、父が亡くなった後、住職が弘前ロータリークラブの会員だったことから誘いを受けたことでした。当初はつまらないこともあったし、年会費も高いなど、退会を考えたこともあったといいます。



しかし、例会での人との出会いや、温かい声かけに支えられ、活動を続けるうちに、ロータリーの真の魅力に気づいたと述べました。

関場氏は、ロータリーの素晴らしさは単なる親睦で終わらない点にあると強調しました。「心の友」を得た上で、その仲間と「世のため、人のため」に何ができるかを考え、実行に移すことが重要だと語りました。ロータリーを「たくさんの奉仕活動が詰まった道具箱」と表現し、会員が自由に活動を選び、新たな感動を得る場だと説明しました。

その代表例として、20年以上続くインドでのポリオワクチン投与活動を挙げました。インドのポリオプラス委員長との出会いがきっかけで始まったこの活動は、関場氏自身のライフワークとなりました。この活動に参加したあるロータリアンが、ポリオワクチンを一滴投与した瞬間の感動からロータリーを続ける決意をしたというエピソードを紹介し、奉仕活動が新たな感動を生み、それがさらに次の出会いへと繋がる「循環」こそがロータリーの姿であると力強く訴えました。



《これからのロータリーが目指すべき姿》

続いて、会員減少という課題を抱える当地区が、これから何を目指すべきかについて、お二人に提言をいただきました。

黒田元RI理事：伝統と革新の統合

黒田氏は、最近「過去を内省し、新しきものを統合していこう」と自分自身が作成したテーマで活動していると述べました。日本のロータリーの伝統を大切にしながらも、時代の変化に対応したロータリーとはどういうことなのかを考えているといいます。そのためには、国際ロータリーのウェブサイトや機関誌を積極的に活用し、自身の考えを広げることの重要性を説きました。また、会員増強はクラブ会長だけでなく、全会員の協力が必要であり、「ロータリーの未来は私たちの手の中にある」というジョン・ケニー元RI会長のテーマを引用して、

会員やクラブが個性を発揮することが、地区の目指すべき姿であると結論付けました。

関場パストガバナー：ロータリアンとしての矜持

関場パストガバナーは、ビチャイ・ラタクル元RI会長の「ロータリーとは、人の生き方そのもの」であるという言葉を用いて、ロータリーの120年の歴史の中で変わらない「ロータリアンとしての生き方そのもの」が、これまでも、この先も目指すべき姿だと主張しました。上からの指示ではなく、クラブの足元から湧き出る議論を大切に、地元に着した奉仕活動を行うことが、ロータリー全体の底上げに繋がると述べました。

また、アラン・ドロン等が出演した「山猫」という映画の、“We must change in order to remain the same.”「私たちが変わらないでいるためには、変わらなければならない」という台詞を引用し、ノーブレスオブリージュという矜持があるといいます。ロータリーの本質は「フェロシップス」(親睦)と「サービス」(奉仕)であり、これを守り続けるためには、ロータリアンとしての誇りを持ち、それを新会員に伝えていくこと、そして信頼し合える仲間と何でも話せる場をクラブに持つことが、ロータリーの永続的な発展に不可欠であると強調しました。

高野RI会長代理は、黒田元RI理事、関場パストガバナーの話を聞いて、次のように述べました。

お二人のお話を聞いていて、思い出したことがありますと言います。それは、「ロータリーとは何か」ということであり、高野氏は、ロータリアンであった父が、「自分自身を磨きたいと考える人々が緩やかにつながる場所」だと言っていたこと、厳格な組織というよりも、個人の気持ちに基づいた自由なアソシエーション(集まり)であると良く聞かされていたそうです。

そして、多くの人がロータリーを続けているのは、何らかのメリットを感じているからであり、それは、新しい発見や感動、感激といった個人的な経験であり、これらをより多くの人と共有することがロータリーの発展につながると述べました。

今後の方向性について、ロータリーは「地域性(ローカライゼーション)」を重視すべきだと言います。日本のロータリーが果たしてきた役割や、ロータリアンとして感じる価値をどう継承していくかが重要になると述べました。

個々のクラブの役割としては、地域の文化や背景を活かし、個々のクラブが主体的に今後のあり方を考えることが求められています。これは、国際的な方針と日本の文化的な側面、その両方をバランスよく考慮する「覚悟」を持つことが大事なのだろうという感想を持ちました。



最後に、花田ガバナーは、お二人の経験に裏打ちされた言葉の重みに感動し、一人ひとりのロータリアンの成長が地区全体の成長に繋がると確信を表明しました。

このパネルディスカッションは、参加者全員が自らのロータリーライフを見つめ直し、個性を輝かせることの重要性を再認識する機会となりました。



記念講演

「一即一切 一切即一」

～個性と全体、全体と個性。

熱くて篤い南米事情～



講師

曹洞宗南アメリカ国際布教総監

清野 暢邦氏

プロフィール

曹洞宗では日本国外を、南アメリカ、北アメリカ、ハワイ・オセアニア、ヨーロッパの四つの地域に分けて管轄しています。私は令和2年10月にパナマ共和国以南の南米大陸を管掌する南アメリカ国際布教総監部総監とあわせて曹洞宗両大本山永平寺・總持寺の南米別院佛心寺住職に就任しました。

はじめに：ブラジルでの布教活動と日本の再認識

私は曹洞宗南アメリカ国際布教総監、清野暢邦と申します。ブラジルのサンパウロに住んで3年になります。ポルトガル語は非常に難しく、動詞の活用が多岐にわたるため、習得には苦勞しています。しかし、この経験を通じて、私たちが当たり前話している日本語も、外国人にとっては大変な努力が必要な言語だと改めて感じました。また、移民の国であるブラジルでは、言語が不安定なこともあり、言葉遣いで社会的な階層がわかると言われるほど、日本に比べて格差が大きいです。このことから、私たちが暮らす日本社会が、世界的に見ていかに平和で

穏やかであるかを再認識しました。

私が南米に赴任することになったのは、日本国内での布教活動が評価され、前任者の後任として推薦されたことがきっかけです。ブラジル・サンパウロは、南半球で最も人口の多い都市であり、日本国外で最大の日系人コミュニティがごぞいます。

日系人社会と先祖供養の熱意

南米に入植した日系人たちは、北海道の開拓地と同様に、村ができるとやがて神社やお寺を建てました。お寺は、単なる宗教施設ではなく、故郷である日本や先祖とのつながりの象徴として、日系人にとって特別な存在です。

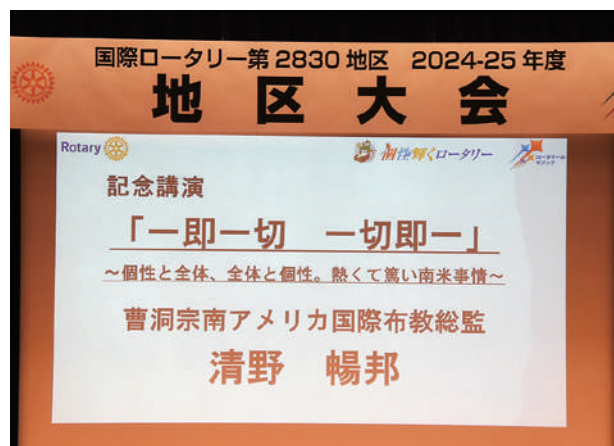
8年前に説教師としてブラジルを訪れた際、私はその熱意を肌で感じました。ブラジルは日本の22.5倍もの広大な国土を持つため、中には車で3日もかけて講演会に来てくださった方もいました。彼らが求めていたのは、私の話以上に「先祖供養」でした。持参された過去帳を見ると、幼くして亡くなった方や、20～30代で命を落とした方が多く、その多くはマラリアのような伝染病によるものでした。当時の開拓地には医者がおらず、お金もなかったため、家族の衰弱をただ見ているしかなかったという悲痛な話を聞きました。彼らは、先祖の国・日本から直接来た私にお勤めをあげてもらうことで、亡き家族を供養したいと願っていたのです。この経験は、私に国内での法要以上に真心を込めて務めることの大切さを教えてくれました。

非日系人の仏教への深い関心

南米はキリスト教文化圏ですが、非日系人の間でも仏教、特に禅への関心が高まっています。彼らは、家柄や慣習としてではなく、自らの意志で仏教を選び、学びを深めています。

この関心の背景には、キリスト教などの一神教と仏教の根本的な思想の違いがあります。一神教では、物事のすべては神が決めたことだと考えますが、仏教では「因縁果(因と縁によってすべての物事が生じる)」という思想に基づき、現在の状況は過去の様々な原因と間接的な条件が積み重なった結果だと説きます。この教えは、社会的に困難な状況にある人々にとって、「神が決めたことだからどうにもならない」という絶望感から解放され、「自分の努力で未来を変えられる」という希望を与え、大きな心の安らぎとなっているようです。

また、「諸行無常」「諸法無我」「涅槃寂静」という仏教の三法印も、彼らにとっては新鮮な教えです。移りゆく世の中で、永遠に変わらないものを求める執着が苦しみを生むという教えは、日々の生活に追われる人々にとって、心の持ち方を根本から見つめ





直すきっかけとなります。

コロンビアを訪れた際には、50年以上内戦が続いていた国で、禅を学び僧侶となった方が「座禅を広めれば、誰も殺し合うことはない」と語っていました。この言葉は、仏教が単なる学問ではなく、平和な社会を築くための「生き方」であることを示していました。

日本の文化と「生き方」としての仏教

日本には古くから、仏教の教えが文化や生活に深く根付いています。ブラジルの日系人集落には、昔の日本の家庭や文化がそのまま残っている場所もあります。

日本で私が知るある「世話焼きおばあさん」は、自分が作った野菜や漬物を近所の人に配ることで喜びを感じていました。その生き方は、仏教の「四摂法(布施・愛語・利行・同事)」そのものです。また、息子や娘たちに心配をかけまいと、不自由な体で入った施設での暮らしを「夏も冬も快適で最高だ」と笑顔で語っていた姿は、「親心」という名の無償の愛の現れでした。

そして、そのおばあさんが亡くなった時、息子さんが「おふくろは貧乏したけれど、いい人生だったよ」と涙を流しながら笑っていた姿が、私の心に深く刻まれました。自分のためではなく、他者のために尽くす生き方が、周囲に喜びと感謝をもたらし、結果として自分自身の人生を豊かなものにしていました。

「一即一切、一切即一」～つながりの中で生きる私たち

本日のテーマである「一即一切、一切即一」という仏教の教えについてお話します。これは私たち個人と世界全体のつながりを説いたものです。

私たちが「私」として存在できるのは、周囲の人々との関係性があるからです。

家庭では、私は誰かの親であり、夫であり、子どもです。これらの役割は、相手がいて初めて成り立

ちます。つまり、「私」は一人では存在せず、他者との関係によって定義されているのです。あなたがいてくれるから、「私」という存在が成り立つ。この関係性のつながりを、大きな網に例えてみましょう。

一つの網の結び目を私たち個人だと考えてください。その網の結び目を一つだけ引っ張ると、どんなに遠くにある結び目でも、ほんのわずかですが形が変わります。

これは、私たちの一つの行動や変化が、全体に影響を与えることを示しています。

同時に、私たち個人の存在も、この全体という網の支えがあって初めて成り立っています。

私たちは孤立した存在ではなく、互いに影響を与え合い、支え合う関係性の中で生きています。

この「一即一切、一切即一」という教えは、私たちの行動がどれほど大きな影響力を持つか、そして私たちの存在がどれほど多くの縁に支えられているかを教えてくれているのです。

ロータリーの理念と仏教の教えの共通点

仏教とは、理屈ではなく「生き方」です。それは、「身、口、意」、つまり「体の使い方」「言葉の使い方」「心の働かせ方」という、私たち一人ひとりの「命の使い方」そのものです。

私がロータリークラブの目的や「四つのテスト」を拝見し、感銘を受けたのは、その理念が仏教の教えと非常に似通っていると感じたからです。「奉仕の理念」は仏教の「摂衆生戒(世のため人のために尽くすこと)」や「四摂法」に通じ、「真実かどうか」「みんなに公平か」といったテストは、仏教の教えが説く、自分と他者の区別をなくす「同時」の精神と重なります。

皆様がロータリーの活動を通じて、より良く命を使うことで、その会が発展し、社会により良い影響を与えていくと信じています。それが、私たちの生きるこの世界を、より良いものに変えていくことにつながるでしょう。本日は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。



各委員会の活動報告と 今年度の方針

RLI委員会

委員長

三浦 真介



RLI(ロータリーリーダーシップ研究会)は、ロータリーの指導者育成プログラムです。今期は、12月7日から8日にかけてファシリテーター研修会を予定しています。この研修会は、RLIの3つの柱であるリーダーシップ、奉仕、会員組織強化を学び、ファシリテーターとして活動するためのものです。また、来年5月24日から25日にはRLI本体の開催も予定しており、新会員を中心に広く参加を呼びかけます。

会員増強部門

委員長

吉田 賢治



会員増強の現状と今後の活動について報告がありました。現在、東第一・第二グループ、西第一・第二グループでは会員数が増加している一方で、中グループと南グループは現状維持の状況です。今後は、各クラブの会長・幹事のやる気を促すとともに、地区大会の報告例会などを活用して、会員増強の機運を高めていく方針です。委員長と各グループの委員がクラブを訪問し、直接協力を呼びかけます。

国際ロータリー第2830地区 2024-25年度
地区大会

地区	2023-24年度	2024-25年度
東第一	1,000	1,000
東第二	1,000	1,000
西第一	1,000	1,000
西第二	1,000	1,000
中	1,000	1,000
南	1,000	1,000
合計	6,000	6,000

公共イメージ向上部門

委員長

工藤 孝子



今年度の活動は「イベント開催」「情報発信力強化」「個々のロータリアン意識向上」の3つの柱で進めます。イベントでは、10月20日に津軽鉄道でポリオジャックを実施するほか、世界女性デーの広報支援も行う予定です。情報発信力を高めるため、地元メディアとの連携強化やSNSの活用を推進します。また、ロータリアンに対し、バッジの着用や奉仕活動時のロゴ入り物品、横断幕の使用などを通じて、日常から公共イメージの向上を意識するよう呼びかけます。



社会奉仕・職業奉仕部門

委員長

岩岡 隆雄



昨年度は青森大学との教育連携協定を更新し、学生向けにロータリアンが講師を務める講義「じょっぱり経済学」を15回実施しました。今年度は、12月に次年度の講師を募集する予定です。さらに、2025年2月8日には八戸で職業奉仕フォーラムを開催し、職業奉仕について深く学び、仕事の楽しさを見出す機会を提供します。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会

委員長

佐藤 健一



当地区の財団部門は、年次基金、恒久基金、ポリオプラスの三つの基金を通じて、ポリオ根絶、グローバル補助金、災害救援などの事業を支援しています。クラブからの寄付は、ロータリー財団によって管理され、3年後に地区補助金(DDF)やグローバル補助金として、各地区へ還元されます。当地区の寄付金は、そのほとんどが地元のロータリアンの意思で活用されており、今後もさらなる協力をお願いします。

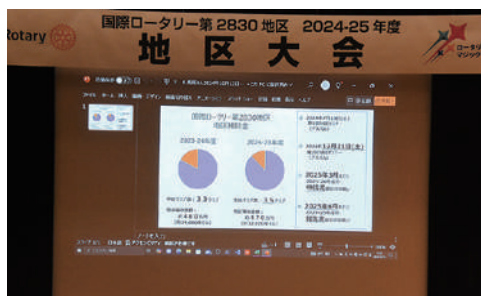
地区補助金委員会

委員長

西尾 和樹



今年度、地区補助金委員会には35クラブから申請がありました。昨年度は33クラブからでした。申請のあったクラブには活動資金を送金済みです。来年度の申請は2025年3月まで、今年度の活動報告は2025年6月末までにご提出ください。12月には第2回財団セミナーを開催し、申請方法について説明する予定です。地区補助金を活用した多様なプロジェクトの実施にご協力をお願いします。



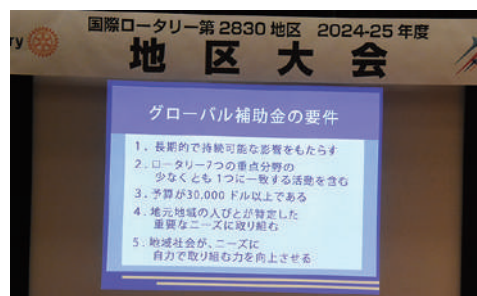
グローバル補助金委員会

委員長

須藤 朗



グローバル補助金は、複数国のクラブが共同で行う大規模な人道的プロジェクト、奨学金、職業研修チームを支援します。特に、財団の資金が使用された後も効果が持続するよう、持続可能性と検証可能性が重要視されます。今年度は、タイの3330地区と3350地区との間で、医療・給水プロジェクトやECMO(体外式膜型人工肺)設置プロジェクトを実施します。また、英国のサセックス大学に留学する中村美鈴さんへの奨学金として、当地区のDDF(地区裁量資金)1万ドルを拠出します。



資金推進委員会

委員長

櫛引 大樹



資金推進委員会は、ロータリー財団への寄付金ゼロクラブの撲滅とロータリーカードの作成を目標に活動しています。昨年度は寄付金ゼロのクラブはなく、最低限の目標は達成できました。今後も引き続き、全クラブに寄付をお願いしていくと共に、カード利用額の一部がポリオ根絶に寄付されるロータリーカードの利用促進に努めます。

平和フェローシップ・奨学金・学友委員会

委員長

竹島直樹



奨学金制度には、海外留学を支援するグローバル補助金と、国内の学生を支援する地区補助金があります。グローバル補助金は、大学院生以上を対象に、ロータリー財団の7つの重点分野に合致した研究を支援し、年間3万ドルの補助金が支給されます。地区補助金は、高校生以上を対象に研究分野の制限はなく、年間30万～60万円の補助金が支給されます。各クラブに奨学金制度の活用を呼びかけ、学生の成長を支援していきます。

ポリオプラス委員会

委員長

成田俊介



ポリオプラス委員会は、ポリオ根絶活動に尽力しています。昨年12月にパキスタンで行われたポリオ接種活動の様子を動画で報告しました。ポリオ根絶まであとわずかであり、11月23日には12名のロータリアンでパキスタンを再訪し、現地の状況を視察する予定です。この活動は、ポリオだけでなく、貧困や水の衛生問題など、現地が抱える複合的な課題を理解する上で有意義なものです。当日の昼休憩にはインターアクトの学生とウォークラリーを行い、募金活動を行いました。ポリオ根絶という共通の目標に向かって、今後も募金活動へのご協力をお願いします。

国際奉仕・青少年奉仕部門

国際奉仕委員会

委員長

柴田文彦



国際奉仕部門は、ポリオ根絶、青少年交換留学、米山奨学金、グローバル補助金など、多岐にわたる国際奉仕活動を支援しています。12月25日からインターアクトの学生を引率し、台湾へ渡航するアクトの翼を企画しており、来年6月21日にはカナダの国際大会に参加します。当委員会の活動は、各クラブの国際奉仕活動を支援することにあります。国際奉仕活動に関する情報があれば、ぜひお寄せください。

青少年交換委員会

委員長

岡山信広



当委員会は、青少年交換事業を推進しています。本日は、アメリカでの留学を終えて帰国した柴田玲音君と、台湾から来日中の交換留学生レオ君が登壇し、留学の成果と日本の生活について発表しました。来年6月7日、8日には日本青少年交換研究会青森会議を、全国から300名以上のロータリアンと学生を招いて開催します。国際交流の機会を創出し、若者たちの成長を支援する本事業へのご理解とご協力をお願いします。



ローターアクト委員会

委員長

竹内 知弘



ローターアクト委員会は、スポンサークラブの支援を受け、各クラブが活発な活動を行っています。今後の目標として、ローターアクトクラブ全体で一体的な活動を推進し、やる気に満ちたローターアクターの期待に応えるべく、委員長としてサポートしていきます。ロータリアンの皆様には、ローターアクターへの積極的な関与を引き続きお願い申し上げます。

インターアクト委員会

委員長

松山 隆志



インターアクト委員会は、年次大会、台湾への交流事業アクトの翼、卒業年次生への研修制度の3つの事業を柱に活動しています。年次大会は来年5月24日、弘前学院聖愛高等学校をホストとして、弘前ロータリークラブが提唱クラブで実施する予定です。アクトの翼は、現在第2次募集を行っており、提唱クラブには学生一人当たり7万円程度の支援をお願いしています。地区内には22のインターアクトクラブがあります。提唱クラブであるか否かに関わらず、すべてのロータリークラブにインターアクターへの積極的なご支援とご協力をお願いします。

RYLA委員会

委員長

三浦 基



欠席のため、地区要覧17頁をご参照下さい。

米山記念奨学部門

委員長

佐藤 一尚



当地区は、今年度、新規・継続合わせて11名の米山奨学生を支援しています。これは、ひとえに皆様からのご寄付によるものであり、心より感謝申し上げます。現在、奨学生たちは各クラブへの訪問や卓話を通じて、ロータリアンとの交流を深めています。今年度は、普通寄付3,000円以上、特別寄付20,000円以上という寄付目標を掲げております。米山奨学生は、将来の母国と日本の架け橋となるべく学業に励んでおりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



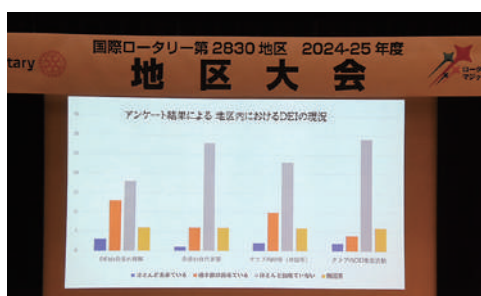
DEI推進部門

委員長

源 新 育 子



当委員会は今年度新設されたばかりの委員会です。今年度5月から6月にかけて地区内全クラブへアンケートを実施した結果、DEIへの理解はまだ十分に進んでいないことが明らかになりました。今後の活動方針として、「仲間を増やそう、もっとロータリーを知ろう」をテーマに、DEIの推進に努め、ロータリーの可能性を広げます。公共イメージ向上委員会やポリオプラス委員会など、複数の委員会と連携し、若者の感性やアイデアをロータリー活動に取り入れることで、会員の帰属意識を高めていきたいと考えます。



ロータリーの友地区代表委員

木 下 一 志



ロータリーの友は、新会員や退会防止に役立つ情報、クラブの活動に直結するヒントが満載です。ぜひ何度も手に取ってご活用ください。また、1953年の創刊号からすべてデジタル化されたアーカイブの活用を推進します。これは非常に便利なツールですが、全国のクラブの55%が利用していない現状があります。クラブの歴史を調べたり、卓話のネタ探しに活用したりするなど、積極的にご活用ください。さらに、各クラブからの記事投稿もお願いしています。投稿された記事はアーカイブに保存され、クラブの歴史として後世に残る大切な記録となります。



閉会セレモニー

ガバナーエレクト、 ノミニー紹介

ガバナー

花田 勝彦



閉会セレモニーでは、次年度のリーダーとなる米谷恵司ガバナーエレクトと、成田俊介ガバナーノミニーへのバトンタッチが行われました。

花田ガバナーより両氏の紹介が行われ、プログラムにも記載された経歴が紹介されました。米谷恵司ガバナーエレクトは、青森モーニングロータリークラブに所属し、株式会社カードック米谷オートの代表取締役を務めています。クラブ会長や地区幹事長、地区RLI委員長などを歴任され、また合気道の師範でもいらっしゃいます。成田俊介ガバナーノミニーは、弘前西ロータリークラブに所属し、医療法人成友会理事長、弘前駅前整形外科クリニックの院長を務めています。米谷エレクトと同年の1960年12月生まれで、クラブ会長、地区幹事長、地区財団委員長などを歴任され、卓球の師範でもいらっしゃいます。(笑)

米谷恵司ガバナーエレクト挨拶

米谷エレクトは、まず長丁場の大会参加者へねぎらいの言葉を述べ、成田ノミニーとは同じねずみ年であると紹介しました。合気道については、現在六段で、来年一月の七段昇段を目指して日々稽古に励んでいることを報告されました。青森県では現在七段の存命者が三人という希少な価値であるため、「一月には皆さんにこのハッピーな素晴らしい報告をしたい」と意気込みを語られました。

今までの研修として、ノミニー研修、プレGELS、GELS#1を終え、11月にはGELS#2、そし



ていよいよ2月9日からはフロリダ州オーランドでの国際協議会が控えていることを報告されました。「そこでみっちり研修を受け、自分の思いや意見、考えを皆様に堂々と伝えられるように研修してまいりたい」と決意を述べられました。

また、弁護士である前のガバナーと、医師である後のガバナーノミニーという優秀なお二人に挟まれ緊張していると述べてつつも、「私の個性を十分に生かして今後もロータリーを頑張ってまいりたいと思います。皆さんのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします」と挨拶を締めくくられました。

成田俊介ガバナーノミニー挨拶

成田ノミニーは、今年度のガバナーノミニーとして、弘前西ロータリークラブの成田俊介であると挨拶されました。不勉強で皆さんに伝えられることは少ないと謙遜しつつ、卓球は弘前市民ナイター卓球大会に20年ほど出場していることを紹介されました。



「これから一生懸命勉強し、とにかく自分の年度にきちんとしたロータリー活動ができるように邁進してまいりますので、皆さんこれからもご協力のほどよろしくお願いいたします」と、活動への協力を求めて挨拶を終えられました。



次期地区大会開催クラブ挨拶 (青森モーニング RC)

次期地区幹事長

最上 伸子



スクリーンでのビデオ上映後、次年度米谷年度の幹事長を拝命する最上伸子氏が、青森モーニングロータリークラブおよびコ・ホストの中グループ(青

森ロータリークラブ、青森北東ロータリークラブ)のメンバーと共に登壇しました。

本来は当クラブの地区大会実行委員長であった新岡壮太郎氏が挨拶を行う予定でしたが、新岡氏は先月逝去されたため、急遽幹事長である最上氏が代行を務めることになった経緯が説明されました。「まだまだ大切な仲間を失った深い悲しみと喪失感に包まれておりますけれども、しっかり前を向いて、ここに掲げてありますハッピーハッピーのおもてなしの精神で皆さんをお迎えする準備をしっかりと進めてまいりたい」と、力強く述べられました。

次年度地区大会は、2025年10月25日と26日に、ホテル青森とリンクステーションホール青森で開催されることが報告されました。最後に中グループのメンバー一同で「待ってるからの」と力強いメッセージを送り、PRを締めくくられました。



国際大会オンツーカルガリー

国際大会推進委員長

中山 佳



2025年のロータリー国際大会は、人口140万人、平均年齢37歳というカナダで急速に成長している都市、カルガリーにて開催されます。近代的なダウンタウンや歴史を体験できる博物館、カルガリー動物園、オリンピックパーク、そして車で一時間半のバンフ国立公園でのロッキー山脈といった大自然が魅

力であると紹介されました。「この魅力的なカルガリーで世界中から集う仲間たちとロータリーマジックを体験し、つながりを広げましょう」と参加が呼びかけられました。

登録はマイロータリーから簡単に行えること、また6月22日の国際大会開会式からの地区ナイトや各種観光を含めた4泊6日の地区ツアーが用意されているため、海外旅行に不慣れな方も気軽に参加できることが強調されました。

花田ガバナーからは、この地区ツアーがロータリーの公式旅行会社であるT-ライフパートナーズと、2600地区(長野県全域)の白鳥ガバナーと合同で検討されており、オフィシャルツアーとなる予定であることが補足されました。地区ナイトも2600地区と合同で「アップルナイト」と題して開催される予定であり、「年度の最後、皆さんぜひ一緒にきたらな」と呼びかけられました。

国際ロータリー会長代理所感

RI会長代理
第2620地区パストガバナー

高野 孫左エ門



国際ロータリー会長代理として派遣された高野孫左エ門様より、所感が述べられました。

まず、「リングつながり」で2600地区と合同で地区ツアーを検討していることに触れ、二日間にわたる大会参加者へのねぎらいの言葉が述べられました。今回の地区大会は、「多くのプログラムがしっかりとチームワークと準備のもとに遂行された」と評価され、花田ガバナー、敦賀実行委員長、寺田ホストクラブ会長、そしてホストクラブ、コ・ホストクラブの皆様の努力の賜物であると敬意を表されました。また、大会はアットホームでありながらメッセージがしっかりと伝わるプログラムが構築・実行されたと感じられたとのことでした。

この大会を通じて特徴的に感じられたのは、花田ガバナー、あるいはモデレーターを務めた山崎パストガバナーの思いとして、「これからを考えると、しっかりとこれまでをもう一度確認しよう」という考え方が一貫していたことであると述べられました。これは、個性輝くクラブづくりをしていくために、地区が共有し確認すべき事柄が散りばめられたものであり、「まさに学びとインスピレーションを与えてくれる、コンパクトな大会のプログラム実行だった」と高い評価をされました。

また、米山梅吉記念館への記念品寄贈が地区から決議されたことに触れ、記念館では初めての経験であり、歴史に残る瞬間であったと感じられたとのことでした。米山記念奨学会への支援とともに、日本のロータリーの始祖である米山梅吉の考え方、特に当地が米山報恩会とのつながりが大変深いことを再確認するためにも、米山梅吉記念館のホームページや館報をぜひご覧いただきたいと呼びかけられました。

最後に、三連休の行楽日和に集まった参加者の熱意と、それに答えようとする準備が一体となって噛み合った、大変良い大会であったと総括し、参加者と準備に当たられた皆様への敬意をもって所感を締めくくられました。

閉会の挨拶

ガバナー

花田 勝彦

花田勝彦ガバナーより、長時間にわたる大会の閉会の挨拶が述べられました。

まず、RI会長代理の高野様ご夫妻への謝辞と、二日間準備してきた実行委員会、ホストクラブ・コホストクラブのメンバーの努力が実を結んだことに感謝の意を述べられました。

今年度の地区大会は昨年よりコンパクトなスケジュールであったため、発表者の方々へ十分な時間が取れなかったことを詫びつつも、「その分だけ密度の濃い活発な検討ができたのではないかと振り返られました。

テーマである「個性輝くロータリー」を一貫させるため、シンポジウムを中心に据え、黒田先生と関場先生のお話から「私たちはどういうふうを考えていったらいいのだろうか」という点が大会のスタートであったと述べられました。シンポジウムでは、予想以上に先生方のお話と高野会長代理のフォローから、「これからどういうふうにやっていけばいいのかは、やはり自分たち次第なんだと。自分たちのクラブ、一人一人のロータリアンがどういうふうにやっていけばいいかという大きなヒントをいただきました」と感じられ、勇気づけられたと述べられました。さらに、清野暢邦氏のお話が、私たちが自然に思う仏教の考え方とロータリーの理念とが「一脈通じた」ものがあると感じられたことに触れ、「全体を通じて私たちはこの地区大会の中で大いに学んだと思います」と大会の成果を総括されました。

最後に、この後の懇親会で大いに楽しんで親睦を深めることを呼びかけ、長時間にわたる参加への感謝の言葉とともに、閉会の点鐘が打たれ、2024-25年度地区大会本会議の全プログラムが終了しました。



大懇親会

18:00~
プラザマリユ五所川原

開会挨拶

五所川原ロータリークラブ
会長

寺田 明代



皆様、こんばんは。

本日はお忙しい中、RI会長代理 高野孫左エ門様をはじめとするご来賓の皆様、そして、多くの地区ロータリアンの皆様に、国際ロータリー第2830地区2024-25年度地区大会の懇親会にご参加いただき、誠にありがとうございます。ホストクラブ会長として、皆様をお迎えできることを大変光栄に思います。また、この日のために1年前から設えの準備をともに頑張ってまいりました地区役員の皆様や五所川原ロータリークラブ会員のご尽力に感謝申し上げます。

この懇親会は、地区大会で新たに学び得た知識を通して友情や絆をさらに深める貴重な機会です。皆様と共に、楽しいひとときを過ごし、互いの経験や知識を共有できることを心から楽しみにしております。

それでは、懇親会の開会を宣言いたします。どうぞ五所川原の地を時間の許す限りごゆっくりお楽しみください。

大懇親会では、P4のプログラム記載の内容のほか、国際ロータリー第3330地区のWichaiパストガバナーから、当地区から19,000ドルのDDFを拠出したグローバル補助金による事業として、水と衛生プロジェクト(14,000ドル)と疾病予防(5,000ドル)の内容について、動画を用いて説明されました。

また、ローターアクト、米山奨学生たちが中心となって、令和6年能登地震、能登豪雨災害への支援金と、ポリオプラスへの募金を会場の参加者からご寄付いただきました。心より感謝申し上げます。特に、講師の清野暢邦氏は、講師謝礼金全額をご寄付いただきました。ありがとうございました。



飲料水用の蛇口を備えた建物内の浄化機能付き逆浸透水フィルター。



古い



新しい



▶1.電気手術装置Erbe
VIO300S+Endocutの購入（電気焼灼および組織切断用）





登録者名簿

地区外招待者

第2520地区	ガバナー	佐藤 剛 (水沢RC)
	パートナー	裕貴子
第2540地区	ガバナー	佐藤 和志 (田沢湖RC)
第2590地区	ガバナー	長戸はるみ (横浜東RC)
第2600地区	ガバナー	白鳥敬日瑚 (佐久コスモスRC)
	パートナー	淑子
第2620地区	ガバナー	小泉 久司 (甲府西RC)
	パートナー	優美
第2660地区	ガバナーパートナー	大橋太美子 (東大阪東RC)
第2680地区	ガバナーパートナー	矢坂ナヲ子 (神戸西RC)
第2720地区	ガバナー	三村 彰吾 (熊本りんどうRC)
	パートナー	知子
第2800地区	ガバナー	芳賀 康雄 (白鷹RC)
第2840地区	ガバナー	森 末廣 (桐生RC)
	パートナー	桂子
第2580地区	ガバナーエレクト	中川 雅雄 (東京浅草RC)
一般社団法人	ロータリーの友事務所 理事・所長	渡辺 剛 (東京みなとRC)
第3330地区	ガバナー代理・パストガバナー	Quanchai Laohaviraphap
第3330地区	パストガバナー	Wichai Maneewacharakiet
	家族	Waraporn Maneewacharakiet
		Thunyporn Maneewacharakiet

東第1グループ

●むつロータリークラブ				
小田桐隆夫	竹内 崇高	田中 常浩	柳谷 敬	
峯 雅夫	波岡 悦郎	白濱 憲一	藤野 芳孝	
むつ大畑ロータリー衛星クラブ				
佐藤 裕介	村林 達也			
●野辺地ロータリークラブ				
松山 隆志	横濱 敬子	須藤 朗	百田 忠	
●七戸ロータリークラブ				
大黒 博	松林 和子	千葉 和夫	石田 博也	
●東北ロータリークラブ				
蛭沢 達彦	工藤 智	蛭沢 公洋	尾形 義昭	
佐藤 直樹	岡山 武彦	大崎 昭子	新堂 義之	
原田 憲一	土井ひろ子	中村 僚		
●むつ中央ロータリークラブ				
柴田 文彦	前川原 亨	坂部 大介		
●六ヶ所ロータリークラブ				
種市 治雄	小田 優吾	岡山 信広	佐藤 進哉	
加藤弘一郎	丹波 竜也			

東第2グループ

●三沢ロータリークラブ				
阿部 勝	澤上 克彦	小比類巻雅祥	石橋 博仁	
●十和田ロータリークラブ				
漆畑 善文	上久保聖一	佐々木千佳子	岩木 節子	
中渡 俊明	小嶋 泰彦	山端 政博	樋口 隼也	
●十和田東ロータリークラブ				
田中 幹志	照井 伸良	佐々木紀仁	竹島 直樹	
白山 春男	欠畑 茂治	金沢 守昭		
●おいらせロータリークラブ				
円子 徳通	杉山 茂夫	川村 重光	吉田 承彦	
●三沢東ロータリークラブ				
田中 正吉	篠田 文隆	浪岡 豊	花田 仁	
宮野 楠見	野坂 篤司	阿部 康人		
●十和田八甲ロータリークラブ				
羽賀 義広	中嶋 崇	岩間 貴	田中 俊次	
下山 勝	大柳 泰光	吹田 正利	田島 一史	
寺澤 憲司	石川 隆大	工藤 竜也	奥山 勝茂	

西第2グループ

●弘前ロータリークラブ				
河端 一秀	三上 信吾	笹森 剛	小山内康晴	
今井 高志	今井佐千江	菱谷 毅	鎌本 文明	
小林 大真	工藤 孝夫	三浦 真介	鈴木 直子	
柴田 博靖	吉田 暁博	猪股 裕一		
●弘前東ロータリークラブ				
工藤 孝子	朝倉 和広			
●板柳ロータリークラブ				
齊藤直飛人	三上 忠男	工藤 昭義	太田 昇	
外川加寿美				
●黒石ロータリークラブ				
渡辺 恵子	増川 博基	大澤 潤逸	木立 慶次	
下山ひとみ	工藤 孝洋	工藤 和行	桑田 泰孝	
中村 公成	山口 龍堂	佐藤 大	村上 陽心	
●大鰐ロータリークラブ				
佐藤 淳	山本 智	宮腰 浩一	佐藤 和治	
船越 規孝				
●弘前西ロータリークラブ				
樋川 新一	草刈 保昌	工藤 武重	成田 俊介	
竹内 知弘	佐藤玲恵子	千葉 瑛子	中畑 肇	
蒔苗 俊二	菊池 孝顕			
●平賀・尾上ロータリークラブ				
齋藤 憲法	今 俊一			
●弘前アップルロータリークラブ				
澁谷 明広	関場 慶博	成田 学	三浦 順子	
宇野 純子				

中グループ

●青森ロータリークラブ

小林 俊一 大中 大輔 沼田 葦 足立 弘長
石川佳共子 太田 心生 川嶋 勝美 河田 喜照
日下 稔 櫛引 大樹 工藤 真人 佐藤 一尚
佐藤 健一 田中 正子 藤川 総 松山 栄一
三浦 基

●青森北東ロータリークラブ

本間 義悦 蝦名 正治 高橋 修

●青森中央ロータリークラブ

原 三郎 三浦 和枝 岡崎 勝弘 野呂 潤

●青森モーニングロータリークラブ

橋 正弘 坂井 哲博 鈴木 唯司 米谷 恵司
須藤 一幸 藤井 健二 本堂きみゑ 最上 伸子
大森 賢二 土橋 伸行

南グループ

●八戸ロータリークラブ

橋本八右衛門 小田山紀暢 村井 達 村井 精子
築館 智大 石橋 信雄 小林 幹夫 峯 正一
中村 稔彦 正部家光彦

●八戸東ロータリークラブ

佐藤 晃 楨 一郎 青森宗一郎 岩岡 隆雄
角 英明 川島 龍也 菊池 厳弘 菊地 泰弘
坂本 興樹 佐々木貴之 田島 幹士 外館 友之
細越 寿一 三浦 雄大 村田 頼信 若山 忠義

●五戸ロータリークラブ

中里 政廣 豊田 孝夫 江渡 恵一 山崎 紀一
工藤 一夫 三浦 一義

●三戸ロータリークラブ

坂本 勝克

●南部ロータリークラブ

夏堀 剛充 島口 英知 若野 利美 松本 保築

●八戸北ロータリークラブ

千葉 哲也 北山 輝夫 源新 和彦 源新 育子
佐々木悦郎

●八戸南ロータリークラブ

慶徳 拓也 出貝 友吾 黒田 正宏 西尾 和樹
吉田 賢治 吉田 立盛 大橋 央雅

八戸南さくらエイト衛星クラブ

高畑 紀子 亀井 圭子 副島 雅子 泉山 裕子
山田 朋子

●八戸中央ロータリークラブ

山村 益広 佐藤 泰治

●八戸西ロータリークラブ

大嵐 泰雅 蛇口 和憲 島浦 理 畠山 徳陽
村岡 徹弥

西第1グループ

●金木ロータリークラブ

野呂 賢一 伊藤真奈美 今 俊順 工藤 文久
前田 光一 原田 大陸 荒関 利康

●鯉ヶ沢ロータリークラブ

石岡 幸弘 加藤 隆之 成田 守男 本間 宏幸
杉澤 廉晴 吉田 諭大

●鶴田ロータリークラブ

坂本 幸光 小関 優 上原 英夫

●五所川原中央ロータリークラブ

一井 定信 宮崎 敬也 成田 英世 高橋 美奈
木村 重孔 宮越 順子 小山内 修 高木 邦男
寺田 政史 岩谷 教裕 對馬 幸征 飛鳥 秀樹
尾崎 淳一 尾崎 行雄 小野 順蔵 菊池 宏
後藤 貴之 今 明文 神 孝幸 武井 匡
對馬 勉 飛嶋 克好 長坂 良輝 藤田 勝弘
山崎 正博

●つがるロータリークラブ

今 淳一 嶋野 琢也 葛西 孝信 工藤 均
斉藤 信治 佐藤 眞治 佐藤 仙人 桜庭 修
鈴木 博美 清野 悟 高井 孝治 鶴賀 善宏
長尾 治彦 成田 弘志 野呂 司 米谷 之宏
渡辺 典睦 坂本 憲彦 宮本 龍聖 成田 勝幸

●五所川原イヴニングロータリークラブ

成田 和代 安田美香子 島村吉三久 成田 秀治
成田 了子 小田桐 浩 長谷川裕紀 一戸ゆかり
古川 勝治 成田 朋広 三戸 靖史 佐々木一仁
山本 晃嗣 山中たける

●五所川原ロータリークラブ

寺田 明代 木村 康仁 山崎 淳一 山崎田鶴子
花田 勝彦 花田 千津 阿部 哲也 浅利 壽信
東 慎治 長谷川 通 長谷川泰典 東 卓弥
平泉 友弘 平山 敦士 平山 洋志 堀内 精二
石川 雄二 角田 浩志 片山 恵子 川村 恒儀
川浪 剛功 木村 重介 木村 泰幸 木下 一志
小林 克徳 今 広樹 今 直樹 近藤 陽介
丸海老 隆 増田 尚紀 増田 卓也 松山 昇榮
中山 佳 成田 学治 成田 和美 成田 幸男
野上 友明 小田桐マキ子 小笠原崇文 太田 康成
奥田 武彦 小野 篤 尾崎 克己 佐々木文人
佐藤 昭義 佐藤 活考 澤田長二郎 清藤 繁光
島村 寿子 島村 豊次 S.G.Silverberg
須崎 暁 高瀬 英人 館山 良子 寺田 和仁
敦賀 鉄正 敦賀 嗣美 山田 真一 安田 義宏
吉岡 昌史 前田 修子(会友) 赤石 剛(会友)

地区大会実行委員会

ガバナー	花 田 勝 彦
大会顧問	山 崎 淳 一
大会実行委員長	敦 賀 鉄 正
大会副実行委員長	阿 部 哲 也
大会幹事	今 広 樹
大会SAA	澤 田 長二郎
大会会計	寺 田 和 仁
ガバナーエレクト	米 谷 恵 司 (青森モーニングRC)
ガバナーノミニー	成 田 俊 介 (弘前西RC)
地区幹事長	木 村 重 介
クラブ会長	寺 田 明 代
クラブ幹事	木 村 康 仁
事務局	浅 利 育 子 (地区事務所)

総務部会

総務部会長	今 広 樹
総務委員長	平 山 敦 士
総務副委員長	近 藤 陽 介
総務委員	島 村 寿 子 清 野 悟 (つがるRC)
	長 谷 川 通
	平 山 洋 志
	川 村 恒 儀
	小 林 克 徳
登録・受付委員長	成 田 学 治
登録・受付副委員長	宮 崎 敬 也 (五所川原中央RC)
	山 田 真 一
登録・受付委員	尾 崎 克 己
	奥 田 武 彦
	島 村 豊 次
	高 瀬 英 人

広報・記録委員長
広報・記録副委員長
広報・記録委員

小笠原 崇 文
松 山 昇 榮
東 慎 治
長谷川 泰 典
中 山 佳
丸 海 老 隆
石 川 雄 二
小 野 篤

交通・宿泊委員長
交通・宿泊副委員長
交通・宿泊委員

会場部会

会場部会長	阿 部 哲 也
会場委員長	太 田 康 成
会場副委員長	佐 藤 昭 義 須 崎 暁
会場委員	木 村 泰 幸 佐 藤 活 考 佐々木 文 人 安 田 義 宏 野 上 友 明 今 直 樹 川 浪 剛 功 平 泉 友 弘 堀 内 精 二 成 田 和 美 成 田 幸 男
懇親・食事委員長	
懇親・食事副委員長	
懇親・食事委員	

接待部会

接待部会長	浅 利 壽 信
接待委員長	角 田 浩 志
接待副委員長	小田桐 マキ子
接待委員	木 下 一 志 増 田 尚 紀 清 藤 繁 光 吉 岡 昌 史 増 田 卓 也 舘 山 良 子 東 卓 弥 片 山 恵 子
救護委員長	
救護副委員長	
救護委員	

S.G.Silverberg



個性輝くロータリー

地区大会記録誌の発刊にあたって

国際ロータリー第2830地区

2024-25年度ガバナー

花田 勝彦

2024年10月12日、13日に当地五所川原に地区内外から多数のロータリアンをお迎えした地区大会の記録誌をようやく発刊することができました。

願わくは年度内、いや、翌年の地区大会に間に合わせようと会議を開き、作業を続けてきたのですが、叶いませんでした。

記録誌は、音声を文字起こししたものをそのまま掲載すれば、短時間で発刊することは可能かも知れません。しかし、後日読み返すことを考えれば、基調講演やシンポジウム等、要点がまとまった内容で、見出しを含め、見やすい構成とするのが望ましいはずです。

そこで、時間がかかってしまったからには、少しでも実用的なものにしようと工夫いたしました。

2025年はAIの普及がめざましく、文章の要点をまとめて報告書や議事録を作成する精度が飛躍的にアップした年です。

この記録誌中、基調講演、オープンフォーラム、記念講演、シンポジウム、閉会セレモニーについては、Google Gemini 2.0の力を大いにお借りしました。

この記録誌が地区内外のロータリアンの皆様がロータリーを学ぶための一助となればこの上ない喜びです。

2024-25年度 国際ロータリー第2830地区

地区大会 in五所川原

記 録 誌

発行日 令和7年12月7日

発行者 国際ロータリー第2830地区

ガバナー 花田 勝彦

編集 地区大会実行委員会



Rotary
District 2830

